

目 次

入学者選抜日程の概要	
入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）	1
入学定員及び募集人員	7
実施方式及び併願について	9
入学者選抜方法等	9
出願資格	9
個別の入学資格審査について	10
受験する教科・科目の確認	11
出願手続	11
(1) 出願期間	11
(2) 出願書類送付先	11
(3) 出願書類	12
(4) 出願上の注意事項	18
受験上及び修学上の配慮を必要とする者の事前相談	19
受験票の発送予定	21
入学者選抜実施教科・科目等	22
(1) 教育学部	24
実技検査内容	27
(2) 経済学部	28
(3) システム工学部	30
総合問題の出題内容	32
(4) 観光学部	34
個別学力検査等の試験場及び試験日時	36
受験上の注意	37
受験者の宿泊について	38
合格者発表	39
入学手続	40
欠員補充	42
個人情報の取扱い	43
入試情報の開示	44
入試成績等の本人開示	45
学部の紹介	47
学生生活	52
大学入試センター試験受験教科・科目確認表	前期日程 56
大学入試センター試験受験教科・科目確認表	後期日程 58
入学願書等記入上の注意	60

添付書類（所定様式・封筒等）

※下記添付書類は、試験日程により所定様式・封筒が異なります。必ず確認の上、所定封筒に入れ提出してください。

出願書類等

前期日程

出願書類等

後期日程

一般入試に関する問合せ先（裏表紙裏面）

入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

大学の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

1. 教育目的

和歌山大学は、地域における学術・文化の府として、豊かな人間性と社会性を育み、自然と調和した社会の発展に向け、修得した専門的知識や技術を通じて、未来を自らの力で切り拓き地域と世界で活躍できる人材を育成します。

2. 求める学生像

本学での学習を可能にする基礎的な知識・技能を備え、以下に示す要件のいずれかを満たし、志望学部が示す学生像に適合する人を求めます。

- (1) 学問への探究心を持ち、課題解決に意欲的に取り組む人
- (2) 自らの将来を見据えた明確な目的意識を持つ人
- (3) 未知の事柄に積極的に挑戦する意欲のある人

教育学部 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

1. 教育目的

和歌山大学教育学部は、人間と教育に関する深い理解と、科学・芸術・文化に関する専門的知識に基づき、教育実践力を高めることで、次代を担う子どもたちの成長と発達を支援していくことのできる高度な資質・能力をもった教員の養成を目的とします。

この目的の実現をはかるために、初等教育コース・中等教育コース・特別支援教育コースの3つのコースを設置しており、明確なキャリアパスにより自らのめざすべき進路に応じた専門教育を受けることができます。

初等教育コースでは、児童の発達や教科のつながりなどを総合的に捉え、就学前教育との連携及び小中連携の視野を持った小学校教員の養成をめざします。子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、教育に関するさまざまな科学・研究分野を学びます。さらに、学校教育の基本的課題のみならず今日の学校内外で多発する複雑で深刻な教育問題に対応できる、総合的で実践的な教育的力量を身につけます。

中等教育コースでは、教科（分野）の専門性を深めつつ、中学校・高等学校教員の養成をめざします。子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、学校における各教科に関する幅広く深い知識と専門的技量を修得します。さらに、文化の継承・発展という教育の基本的課題に対応できる、総合的で実践的な教育的力量を身につけます。

特別支援教育コースでは、学習に困難のある子どもや、発達が気になる子ども、障害のある子どもなど、特別なニーズを有する子どもの教育について、専門的知識や理論を身につけながら実践的な指導能力を養い、両者のバランスに優れた教員の養成を目的とします。最新の理論の修得に加えて、在学中から実際に子どもと接する機会を多く持ち、体験を通して学ぶことを重視します。

2. 求める学生像

教育学部の求める学生像は以下のとおりです。

- (1) 入学後の専門的知識と教養を学ぶ基礎となる学力・実技技能を有し、主体的・協同的に学習に取

り組むことができる人

- (2) 学校教育に興味を持ち、教職やそれに関わる職をめざす人
- (3) 子ども・青年の成長・発達に関心を持ち、それを支援する豊かな人間性と人権意識を有する人
- (4) 他者を理解し、他者と協働できるコミュニケーション能力を有する人
- (5) 教育についての諸問題に関心を持ち、それらを解決するために自ら探求し、取り組もうとする意識を有する人

入学後には、教育にかかわる諸問題に一層の関心を持ち、自分自身が取得すべき教員免許状の種類やキャリアパスを考え、子ども・青年たちの成長・発達を支援する専門職として求められる資質・能力を修得することを期待します。

- ・教員免許状の取得を目的とした体系的カリキュラムを履修することで、子ども・青年たちの成長・発達を支援する専門職にふさわしい学術的教養と教育実践に関わる専門的知識を修得すること。
- ・学校現場での実習や体験を通じて、実践的指導力を身につけること。
- ・卒業成績や専門科目において提供される能動的な学習の機会を通じて、主体的に学び続ける力や他者と協働する力、問題を解決する力など、職業人・社会人として必要となる汎用的技能や態度を身につけること。

3. 入学者選抜の基本方針

- (1) 一般入試〔前期日程〕では、入学後の専門的知識と教養を学ぶ基礎となる学力・実技技能を大学入試センター試験及び個別学力検査等により評価し、入学者を選抜します。
なお、大学入試センター試験に際しては、文科系・理科系・実技系に分類した配点を行い、個別学力検査等に際しては、募集区分を文科系・理科系・実技系に分類し、それぞれの区分に応じた入試を実施します。
- (2) 一般入試〔後期日程〕では、入学後の専門的知識と教養を学ぶ基礎となる学力を大学入試センター試験により、また、学力・豊かな人間性と人権意識・課題解決に向けて探求し取り組もうとするための力量を個別学力検査等により評価し、入学者を選抜します。
なお、大学入試センター試験に際しては、文科系・理科系に分類した配点を行い、個別学力検査等に際しては、募集区分を文科系・理科系に分類し、それぞれの区分に応じた入試を実施します。
- (3) 推薦入試〔一般推薦枠〕では、学校教育に興味を持ち、教職をめざす者として出身学校長より推薦を受けた者のうち、入学後の専門的知識と教養を学ぶ基礎となる学力を大学入試センター試験により、また、豊かな人間性と人権意識・コミュニケーション能力・課題解決に向けて探求し取り組もうとするための力量を面接及び出願書類により総合的に評価し、入学者を選抜します。
なお、大学入試センター試験に際しては、初等教育コース・中等教育コースにおいて募集区分を文科系・理科系に分類した配点を行い、面接に際しては、初等教育コース・中等教育コース・特別支援教育コースに分類し、それぞれの区分に応じた入試を実施します。
- (4) 推薦入試〔地域推薦枠〕では、学校教育に興味を持ち、教職をめざす者として出身学校長より推薦を受けた者のうち、入学後の専門的知識と教養を学ぶ基礎となる学力・課題解決に向けて探求し取り組もうとするための力量を小論文により、豊かな人間性と人権意識・コミュニケーション能力・課題解決に向けて探求し取り組もうとするための力量を面接並びに出願書類により総合的に評価し、入学者を選抜します。
なお、小論文に際しては、文科系・理科系に分類し、それぞれの区分に応じた入試を実施し、また、面接に際しては、初等教育コース・中等教育コースに分類し、それぞれの区分に応じた入試を実施します。

経済学部 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

1. 教育目的

学部の目的(教育理念)

学部は、広い視野と専門領域に応じた基礎学力及び経済社会を体系的に理解できる能力をもち、経済社会のさまざまな問題を真摯に受け止め、的確に判断し創造的・実践的に対応できる人材を育成することを目的とする。

（経済学部規則第1条の2）

学部の教育目標

和歌山大学経済学部は、和歌山高等商業学校として創設されて以来、長きにわたり社会から必要とされる人材を輩出してきたという伝統を持ちます。この伝統を大切にしながら、多様で変化の激しい予測困難な社会を体系的に理解し、刻々変化する世界経済の動向に的確に対応することができる人材を育成します。そのために、以下の知識を教授し、技能、態度・姿勢、統合的な能力・姿勢を涵養します。

<知識>

- (1) 和歌山の歴史や事情、和歌山大学の伝統も含む幅広い教養、経済学や経営学を中心とする社会科学の諸分野の基礎的・専門的知識

<技能>

- (2) 論理的思考力を中心としたコミュニケーション力、情報リテラシー、数量的スキルなどの汎用的技能

<態度・姿勢>

- (3) 個人の自立と他者との協働を図りながら、経済社会のさまざまな問題を真摯に受け止める姿勢

<統合的な能力>

- (4) さまざまな問題の解決に向けて情報を収集し、習得した知識や修得した技能を利用して的確に判断し、創造的・実践的・主体的に行動する能力

2. 求める学生像

経済学部の求める学生像は以下のとおりです。

高等学校等の標準的なカリキュラムや課外活動、諸外国における教育制度の下での学修、高等教育機関における学修や諸活動、並びに就業などを伴う社会的な活動などの様々な学びの機会を通して、次のような知識・技能・能力を身につけようとしてきた人を求めます。

- ・ 社会の複合的な課題を発見・理解するための幅広い基礎的知識
- ・ 認識した課題を分析・解決するための思考力
- ・ 課題解決の実践にあたり、多様な人々と対話するためのコミュニケーション能力

入学後には、自らがさらに努力を重ね、多くの人と関わり合いながら、経済・社会の活動にかかわる諸問題に一層の関心を持ち、これまでに身に付けた能力を磨くとともに、次のような知識・技能・能力を身につけることを期待します。

- ・ 経済学、経営学、会計学、情報学、法学などを中心とした専門知識
- ・ 専門知識を領域横断的に活用した理解力、思考力、表現力
- ・ 主体的に学び、考え、多様な人々と協働する能力

3. 入学者選抜の基本方針

- (1) 一般入試〔前期日程〕では、高等学校等で学ぶ各教科の基本的な知識と、英語の理解力及び数学

的思考力を、それぞれ大学入試センター試験と個別学力検査により評価し、入学者を選抜します。また、商業に関する知識・技能・思考力を備えた人材を選抜するために、大学入試センター試験及び個別学力検査において、商業関連科目の選択を認めます。

- (2) 一般入試〔後期日程〕では、外国語の理解力と特定分野の知識、並びに高等学校等で培った理解力（読解力）・論理的な思考力・表現力（文章力）をそれぞれ大学入試センター試験と個別学力検査等により評価し、入学者を選抜します。大学入試センター試験の評価において、すぐれた成績を収めた科目に配慮します。理解力、論理的思考力、表現力を重視し、入学者選抜の評価に反映します。
- (3) 推薦入試では、高等学校等において身につける学力のうち、基本的な知識の修得状況と学ぶ意欲、社会科学を学ぶ上で必要な理解力（読解力）・論理的な思考力・表現力（文章力）、他者との議論や協働的な活動の礎となるコミュニケーション能力を、それぞれ出願書類、小論文、及び集団討論により評価し、入学者を選抜します。
- (4) スポーツ推薦入試では、高等学校等において身につける学力のうち、社会科学を学ぶ上で必要な理解力（読解力）・論理的な思考力・表現力（文章力）を小論文により評価します。これに加えて、基本的な知識の修得状況、顕著な成績を収めたスポーツ活動において培われた主体性や多様な人々と協働する力、及びスポーツの実践、普及、振興についての関心を出願書類と面接により評価し、入学者を選抜します。
- (5) 社会人特別入試では、高等学校等の卒業後の社会人経験とそこから得た知見、及び生涯にわたり学び続ける姿勢などを出願書類及び面接により評価し、入学者を選抜します。
- (6) 帰国子女特別入試では、諸外国での学びと日本における学びのためになされた種々の活動を面接と出願書類により評価し、入学者を選抜します。
- (7) 私費外国人留学生特別入試では、諸外国での学びを通して得た基礎的な知識と日本に留学するにあたってなされた学びの成果を日本留学試験と出願書類により評価します。あわせて日本語の運用能力を面接により評価し、入学者を選抜します。
- (8) 第3年次一般編入学入試では、他大学などでの学修により身につけた経済学・経営学などに関する知識とそれを活用する思考力・判断力・表現力、及び英語の運用能力をそれぞれ小論文と出願書類により評価します。あわせて、他者と協働・協調する力、あるいは他者をリードする力を面接により評価し、入学者を選抜します。
- (9) 第3年次推薦編入学入試では、他大学などでの学修により身につけた経済学・経営学などに関する知識とそれを活用する思考力・判断力・表現力、及び英語の運用能力を出願書類により評価します。あわせて、他者と協働・協調する力、あるいは他者をリードする力を面接により評価し、入学者を選抜します。

システム工学部 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

1. 教育目的

和歌山大学システム工学部は、広範な教養及び理工学における複数領域の分野を横断する知識を身につけ、その知識を自ら活用することにより、広い視野から時代の要請に応え、産業・社会のニーズに即応できる実践力と創造性を持ち、課題解決のできる研究者や技術者を養成します。

2. 求める学生像

システム工学部は、理工系学部教育を学ぶために必要な基礎的な学力を備え、以下に示す要件を満たす人を求めます。

- (1) 理数系の基礎知識と問題解決能力を持ち、国際的なコミュニケーションに必要な英語力を有する人
- (2) 論理的思考力と多面的な分析能力により、複合化された複雑な課題を解決する能力を持つ人

(3) 明確な目的意識を持ち、自らの将来を切り拓く意志を有する人

入学後には、自ら学び考える力をもち、以下の様な観点から、学術・産業研究を含む広範な理工系分野で活躍する自律的な高度技術者を目指すことを求めます。

- ・自分自身の思い描くキャリアパスを客観的に考え、それに応じた2つのメジャーを選択すること
- ・メジャーが提供する専門知識・技能を主体的に修得し、未来の職業人としての基礎力を高めること
- ・異なる知識や技能を、断片的にではなく体系化して身につけ、複雑な課題を解決する能力へと高めること

3. 入学者選抜の基本方針

- (1) 一般入試[前期日程]では、高等学校等で学んだ各教科の基本的な知識を大学入試センター試験により、数学的思考力と英語の理解力を個別学力検査により評価し、入学者を選抜します。
- (2) 一般入試[後期日程]では、高等学校等で学んだ各教科の基本的な知識を大学入試センター試験により、システム工学を学ぶにふさわしい能力・適性を個別学力検査等により評価し、入学者を選抜します。
- (3) 推薦入試では、明確な目的意識をもって入学を希望し、かつ、出身学校長より推薦を受けた者のうち、高等学校等で学んだ各教科の基本的な知識を大学入試センター試験により、目的意識や学修意欲等を面接及び出願書類により総合的に評価し、入学者を選抜します。
- (4) 第3年次推薦編入学入試では、高等専門学校等での学修により身につけた理工系学部に関する専門知識・技能等を面接と出願書類により評価します。あわせて、目的意識や学修意欲等を面接により評価し、入学者を選抜します。
- (5) 第3年次一般編入学入試では、高等専門学校等での学修により身につけた理工系学部に関する専門知識等を学力検査により評価します。あわせて、高等専門学校等での学修により身につけた理工系学部に関する専門知識・技能や目的意識、学修意欲等を面接により評価し、入学者を選抜します。

観光学部 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

1. 教育目的

21世紀は「観光の時代」と言われ、世界のあらゆる国・地域で最も有望な成長分野として観光が注目を集めています。わが国においても観光は戦略産業と位置づけられ、官民一体での「観光立国」実現に向けた政策や取組が加速するなか、観光産業や行政の現場と密接に連携しながら、新しい観光学の創造及び観光を支えるに相応しい豊かな教養と専門性並びにグローバル時代に対応したハイレベルな国際的・学際的視点を持つ観光人材の輩出が期待されています。

このような背景のもと、和歌山大学観光学部では「観光経営」・「地域再生」・「観光文化」という3つの基本領域（コース）の相互関係として観光学の学問体系の全体像を認識しつつ、このうちのいずれかの領域に主たる専門性（より深い教養）を発揮できる人材を養成することを目指します。

現代社会で求められる実践的な諸課題に対しては、専門性を活かして応用することができる「包括的対応力（ジェネリックスキル）」が必要です。英語による専門科目の履修機会を飛躍的に増加させることにより、異文化コミュニケーション力を高め、グローバル化した社会状況への高度な対応力を涵養することを重視します。さらに、地域の諸課題に取り組む実践型教育の機会を拡充することにより、オンサイトでの創造的実践力を身に付けることを目指します。

2. 求める学生像

観光学部では、観光についての幅広い関心を持つ以下のような人を求めます。

- (1) 多角的な思考力を身につけることが期待される人
 - ・高等学校等で履修する科目について基本的な知識を有する。
 - ・論理的に深く思考する力を有する。
 - ・多面的にものごとをとらえる力を有する。
- (2) 柔軟な協働力を身につけることが期待される人
 - ・他者の意見を尊重し受け入れる柔軟性を有する。
 - ・協調性を持ち円滑なコミュニケーションを図る力を有する。
 - ・規範性を持ち自己を律する力を有する。
- (3) 広範な理解力を身につけることが期待される人
 - ・文章を読み解く力を有する。
 - ・多様な文化・歴史・地理・言語への強い関心を有する。
 - ・現代の社会情勢に対する強い関心を有する。
- (4) 高度な創造力を身につけることが期待される人
 - ・自身の考えを文章としての確に表現できる力を有する。
 - ・主体的かつ積極的にものごとに挑戦し持続する力を有する。
 - ・新しいものごとへの好奇心・探究心を有する。

入学後には、観光にかかわる諸問題に一層の関心を持ち、これまで身に付けた能力をさらに磨くとともに、次のような知識・技能・能力を身につけることが求められます。

- ・自律的にキャリアパスを考え、それに応じたコースを選択すること
- ・各コースにおいて専門知識を身につけ、同時に多角的な思考力を身につけること
- ・実践型プログラムを通して柔軟な協働力を身につけること
- ・専門演習等の少人数科目により高度な創造力を身につけること

3. 入学者選抜の基本方針

- (1) 一般入試[前期日程]では、入学後の専門的知識と教養を学ぶ基礎となる学力を大学入試センター試験により、また、英語の理解力及び国語の論理的思考力、又は数学的思考力を個別学力検査により評価し、入学者を選抜します。
- (2) 一般入試[後期日程]では、入学後の専門的知識と教養を学ぶ基礎となる学力を大学入試センター試験により、また、理解力、論理的思考力、創造力の力量を個別学力検査等の小論文により評価し、入学者を選抜します。
- (3) AO入試では、入学後の学修に必要な理解力、論理的思考力、創造力、協働力の力量を書類審査、講義と提出書類に基づいた面接、プレゼンテーションにより多面的に評価し、観光関連産業・政策のリーダーや、観光産業を確立できうる入学者を選抜します。
- (4) 推薦入試では、高等学校等において身につける学力のうち、基本的な知識の修得状況及び高等学校等において意欲的に取り組んだ活動実績、資格取得等により入学後の学修に必要な学力、柔軟な協働力、さらにアドミッション・ポリシーへの適合を面接及び出願書類により総合的に評価し、入学者を選抜します。
- (5) 社会人特別入試では、入学後の学修に必要な理解力、論理的思考力、創造力、協働力に加え、高等学校等卒業後の社会人経験とそこから得た知見、及び生涯にわたり学び続ける姿勢などを出願書類及び面接により総合的に評価し、入学者を選抜します。
- (6) 私費外国人留学生特別入試では、入学後の学修に必要な理解力、論理的思考力、創造力、協働力に加え、諸外国での学びを通して得た基礎的な知識と日本に留学するにあたっての学習成果、日本語運用能力を日本留学試験、出願書類、面接により総合的に評価し、入学者を選抜します。

入学定員及び募集人員

学部	学科・課程	入学定員	募 集 人 員								
			一 般 入 試		特 別 入 試						
			前 期 日 程	後 期 日 程	推 薦 入 試 注3	推 薦 入 試 地域(紀南) 推薦枠	ス ポ ー ツ 推 薦 入 試	帰国 子女 特別 入 試	社会 人 特別 入 試	A O 入 試	私費 外国人 留学生 特別 入 試
教育学部	学校教育教員養成課程	165	100 (備考1参照)	35 (備考1参照)	20	10	—	—	—	—	—
	小 計	165	100	35	20	10	—	—	—	—	—
経済学部	経 済 学 科	300	180	80	30	—	4	3	3	—	若干名
	小 計	300	180	80	30	—	4	3	3	—	—
システム工学部	シ ス テ ム 工 学 科	305	170	100	35	—	—	—	—	—	若干名
	小 計	305	170	100	35	—	—	—	—	—	—
観光学部	観 光 学 科	120	55	28	25	—	—	—	2	10	若干名
	小 計	120	55	28	25	—	—	—	2	10	—
合 計		890	505	243	110	10	4	3	5	10	—

注1 特別入試の推薦入試、スポーツ推薦入試、帰国子女特別入試、社会人特別入試、A O入試の合格者が、募集人員に満たない場合には、その差を前期日程の募集人員に加えます。

注2 私費外国人留学生特別入試は、入学定員外として募集します。

注3 教育学部では、推薦入試一般推薦枠をさします。

〔備考〕

- 1 教育学部の学校教育教員養成課程の一般入試は、次のとおり募集します。

課 程	系	専 攻	募集人員	
			前期日程	後期日程
学校教育教員養成課程	文 科 系		45	25
	理 科 系		35	10
	実技系	音 楽 又 は 美 術	10	
		保 健 体 育	10	
計			100	35

(注)① 文科系又は理科系を受験し、合格した人は、入学後に各コース（初等教育コース、中等教育コース、特別支援教育コース）への所属を決定します。

② 実技系を受験し、合格した人は、入学後に各コース（初等教育コース、中等教育コース）への所属を決定します。

2 教育学部の一般入試の募集区分と入学後のコース等の対応は下表のとおりです。

募集区分			入学後のコース等	
学校教育教員養成課程	文科系		初等教育コース	教育学、心理学、国語科教育、英語教育、社会科教育、家庭科教育、音楽科教育、図画工作科教育、体育科教育
			中等教育コース	教育学、心理学、国語科教育、英語科教育、社会科教育、家庭科教育、音楽科教育、美術科教育、保健体育科教育
			特別支援教育コース	特別支援教育学
	理科系		初等教育コース	教育学、心理学、算数科教育、理科教育、家庭科教育、音楽科教育、図画工作科教育、体育科教育
			中等教育コース	教育学、心理学、数学科教育、科学教育、家庭科教育、音楽科教育、美術科教育、保健体育科教育
			特別支援教育コース	特別支援教育学
	実技系	音楽又は美術	初等教育コース	音楽科教育
				図画工作科教育
		中等教育コース		音楽科教育
				美術科教育
		保健体育	初等教育コース	体育科教育
			中等教育コース	保健体育科教育

(注) なお上記の欄は変更されることがあります。

実施方式及び併願について

本学の一般入試は、分離分割方式による「前期日程」と「後期日程」で実施します。

本学の前期日程に出願する場合は、他の国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）の前期日程との併願はできません。

本学の後期日程に出願する場合は、他の国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）の後期日程との併願はできません。

本学内の学部間又は同一学部内における前期日程と後期日程への出願、いわゆる学内併願は可能です。その場合は、前期日程と後期日程のそれぞれに出願書類を提出し、入学検定料を納めてください。

※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部は、公立大学協会ホームページ（<http://www.kodaikyo.org>）を参照してください。

入学者選抜方法等

入学者選抜方法は、平成 30 年度大学入試センター試験の成績と本学が実施する個別学力検査等の結果及び調査書を総合して行います。

大学入試センター試験の利用教科・科目及び個別学力検査等の実施教科・科目等並びにこれらの配点については、各学部の【入学者選抜実施教科・科目等】を参照してください。

出願資格

次の各号のいずれかに該当し、かつ各学部・学科等が指定する平成 30 年度大学入試センター試験の受験を要する教科・科目（22～35ページ参照）を受験した者

1. 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び平成 30 年 3 月までに卒業見込みの者
2. 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者及び平成 30 年 3 月までに修了見込みの者
3. 学校教育法施行規則（昭和 22 年文部省令第 11 号）第 150 条第 1 号から第 5 号の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成 30 年 3 月 31 日までにこれらに該当する見込みの者

これらの者は以下のとおり。

- ① 外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者及び平成 30 年 3 月 31 日までに修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
 - ② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び平成 30 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
 - ③ 専修学校の高等課程（修業年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成 30 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
 - ④ 文部科学大臣の指定したもの（昭和 23 年文部省告示第 47 号）
 - ⑤ 高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第 1 号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）及び平成 30 年 3 月 31 日までに合格見込みの者で、平成 30 年 3 月 31 日までに 18 歳に達するもの
4. 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18 歳に達した者及び平成 30 年 3 月 31 日までに 18 歳に達するもの

個別の入学資格審査について

出願資格の 4 により一般入試に出願しようとする者は、個別の入学資格審査を行いますので、下記を参照の上申請してください。

(申請方法・受付期間)

※事前に提出書類等の指示を行いますので、必ず下記の各（申請書類等受付期間）開始前に下記照会先に問い合わせてください。

申請書類等の提出方法は、持参・郵送により受付します。

窓口受付時間は、9時から17時（12時から13時を除く）までとします。

郵送の場合は、封筒表に「一般入試 入学資格審査提出書類在中」と朱書きし、書留速達郵便にて受付期間内までに和歌山大学入試課に必着するよう郵送してください。

なお、各受付期間最終日17時を超えて到着のものは受理しません。

※申請書類等受理後、別途必要書類を求める場合があります。

(申請書類等受付期間)

第1回 平成29年8月21日（月）～8月25日（金）【17時までに入試課必着】

第2回 平成30年1月15日（月）～1月17日（水）【17時までに入試課必着】

(照会先・申請書類等提出先)

〒640-8510 和歌山市栄谷 930

和歌山大学入試課 TEL 073-457-7117（直通）

(審査結果)

審査の結果、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者に対し、「和歌山大学入学資格認定書」を申請者宛に書留速達郵便にて郵送します。

受験する教科・科目の確認

- ① 出願の際には、**22～35**ページの「入学者選抜実施教科・科目等」により、各学部が指定する平成**30**年度大学入試センター試験の教科・科目を受験していることを確認してください。
- ② 確認の際には、**56～59**ページの「大学入試センター試験受験教科・科目確認表」を使用してください。前期日程と後期日程がありますので出願日程を確認した上で行ってください。
- ③ 各学部・学科等が指定する平成**30**年度大学入試センター試験の受験を要する教科・科目（**22～35**ページ参照）を受験していなければ、出願資格を満たしていないことになり出願できません。出願受付後に、志望する学部・学科等が指定した平成**30**年度大学入試センター試験の受験を要する教科・科目の不足等による出願無資格者であることが判明した場合は、個別学力検査等の受験はできません。この場合、検定料の一部を返還することとなります。本学は、出願期間終了後に大学入試センターからの提供データに基づいてのみ、この確認を行います。出願資格を満たしていないことが判明次第、本人へ通知します。なお、本学は、過年度の大学入試センター試験の成績は利用しません。
- ④ 各学部・学科等が指定する個別学力検査等の教科・科目等を一つでも受験していない者、出願時に届け出た個別学力検査等科目と異なる科目を受験した者は、当該学部・学科等の合格者選考の対象となりませんので注意してください。

出願手続

出願者は、出願書類等を取り揃え、本要項添付所定封筒を用い、下記出願書類提出先へ書留速達郵便で郵送してください。また、前期日程と後期日程の両方とも和歌山大学に出願する者は、それぞれ試験日程別に出願書類等を取り揃え、個々に郵送してください。

出願書類到着の照会には応じません。

(1) 出願期間

平成30年1月22日（月）～1月31日（水）17時まで必着

出願書類の受付は、郵送によるもののみとし、直接持参しても受理しません。

平成**30**年**1月31日（水）17時**までに和歌山大学入試課に必着するように郵便事情を十分考慮し、余裕をもって早めに出願してください。平成**30**年**1月31日（水）17時**を超えて到着したものは受理しません。

ただし、平成**30**年**1月30日（火）**以前の発信局（日本国内）消印のある書留速達郵便で、平成**30**年**2月1日（木）12時（正午）**までに和歌山大学入試課に到着したものに限り、例外的に受理します。

(2) 出願書類送付先

〒640-8510 和歌山市栄谷 930 和歌山大学 入試課 （試験日程別本要項添付所定封筒による）

(3) 出願書類

本要項添付の所定様式は、前期日程用と後期日程用の2種類があります。

入学願書等に記入、「平成 30 センター試験成績請求票」を貼付する際は、前期日程と後期日程のいずれの試験日程に出願するかを十分確認し、誤りのないよう注意してください。

出願書類及び入学願書在中封筒に記入した志望する学部・学科等が全て同一学部・学科等であるかを必ず確認し送付すること。

1. 入学願書 2. 電算処理票 3. 平成 30 センター試験成績請求票 (出願者が用意) 4. 受験票 5. 写真票 (上記は 1 枚の用紙となっています。切り離さずに提出してください。)	本要項添付の所定様式に記入してください。記入については、「入学願書等記入上の注意」(60～71 ページ)を参照してください。 <u>前期日程</u>用と<u>後期日程</u>用がありますので、いずれの試験日程に出願するかを十分確認し、誤りのないよう注意してください。 <u>入学願書・電算処理票・受験票・写真票は 1 枚の用紙となっています。切り離さずに提出してください。</u> 1. 入学願書 記入については、「入学願書等記入上の注意」を参照してください。 連絡先については、出願書類に関する問合せを行う場合があるため、早急に連絡がとれる連絡先を記入し、携帯電話番号も記入してください。 2. 電算処理票 記入については、「入学願書等記入上の注意」を参照してください。 3. 平成 30 センター試験成績請求票 (「<u>前期</u>国公立前期日程用」又は「<u>後期</u>国公立後期日程用」) <u>電算処理票の「平成 30 センター試験成績請求票国公立(試験日程別)貼付欄」に、各自が出願する試験日程の「<u>前期</u>国公立前期日程用」又は「<u>後期</u>国公立後期日程用」のいずれかを糊で剥がれないように貼付してください。再発行を受けた者は、再発行後のものを貼付してください。</u> <u>必ず、「国公立」の成績請求票であるか確認し貼付してください。</u> 4. 受験票、5. 写真票 記入については、「入学願書等記入上の注意」を参照してください。 出願前 3 か月以内に撮影した同一の顔写真(縦 4 c m×横 3 c m、正面向き、無帽、上半身、無背景の顔写真)を、受験票・写真票の所定欄に貼付してください。 写真の裏面には、出願する試験日程(前期日程又は後期日程)・学部(教育学部は課程・系・専攻(専攻とは実技系の「音楽又は美術」又は「保健体育」。以下同じ)・氏名を記入してから糊で剥がれないように貼付してください。
--	--

6. 入学検定料	17,000円 (入学検定料の納入方法) 金融機関窓口(ゆうちょ銀行を除く)又はコンビニエンスストア(日本国内の店舗のみ)のいずれかの方法により納入してください。 1. 金融機関窓口(ゆうちょ銀行を除く)による納入方法 ① 本要項添付の所定様式です。 「平成30年度入学検定料の納入上の注意(前期日程用)」又は「平成30年度入学検定料の納入上の注意(後期日程用)」の振込依頼書等記入要領に従い必要事項を記入し、「C票 振込金受付証明書」、「B票 振込金領収書」、「A票 振込依頼書」を切り離さずに「電信扱」が利用できる<u>金融機関窓口(ゆうちょ銀行を除く)</u>から振り込みしてください。振込手数料は志願者負担となります。 注1. 通常、金融機関の窓口営業時間は、15時までです。また、土日・祝日は休業となります。 注2. ATM・スマートフォン・携帯電話・PC等からは振り込まないでください。 ② <u>振り込み後は、「C票 振込金受付証明書」、「B票 振込金領収書」を受け取ってください。C票、B票に金融機関収納印が押印されているかを必ず確認してください。</u> <u>C票は入学願書所定欄に貼付する必要があります。</u> B票は領収書となりますので大切に保管してください。 2. コンビニエンスストア(日本国内の店舗のみ)による納入方法 ① 事前にWebでの申込みが必要です。払込み方法等の詳細は、必ず下記ホームページで確認してください。 https://e-shiharai.net/ QRコード  ② 下記の払込み期間中に払い込みください。 払込期間： 平成30年1月1日(月)0:00から1月31日(水)15:00まで ③ 払込み後は、「入学検定料・選考料取扱明細書」を必ず受け取ってください。<u>「収納証明書」部分は入学願書所定欄に貼付する必要があります。</u> 3. 検定料返還について 出願を受理した後は、次の場合を除き、いかなる理由があっても振り込み済の検定料は返還しません。ただし、次の場合は、平成30年3月2日(金)までに返還請求を行ってください。 (ア) 検定料の全額返還請求ができる者 ・ 検定料振り込み後、出願書類を提出しなかった者又は出願が受理されなかった者 ・ 検定料を誤って二重に振り込みした者 (イ) 検定料の一部(13,000円)返還請求ができる者 ・ 出願受理後に大学入試センター試験受験科目の不足等による出願無資格者であることが判明した者
----------	---

7. C票 振込金受付証明書 又は 収納証明書 (納入方法により 異なります。)	(金融機関窓口(ゆうちょ銀行を除く)により納入した場合) 本要項添付の所定様式です。 <u>前期日程</u>用と<u>後期日程</u>用がありますので、いずれの試験日程に出願するかを十分確認し、誤りのないよう注意してください。 金融機関で受領した、「C票 振込金受付証明書」の取扱金融機関収納印を確認し、入学願書の所定欄に糊で剥がれないように貼付してください。取扱金融機関収納印のないものは無効のため、必ず確認してください。取扱金融機関収納印が押印されていないC票の場合は出願を受理しません。 (コンビニエンスストアにより納入した場合) 払込み後に交付される「入学検定料・選考料取扱明細書」の「収納証明書」を入学願書の所定欄に糊で剥がれないように貼付してください。
8. 調査書等	(ア) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び平成30年3月までに卒業見込みの者 (イ) 特別支援学校高等部を卒業した者及び平成30年3月までに卒業見込みの者 上記(ア)(イ)のいずれかに該当する者は、出身学校長が、文部科学省の定めた様式により作成し、厳封された調査書を提出してください。 出身高等学校等以外の高等学校等に在学したことがある場合は、在学高等学校等の調査書等(学校長が作成し、厳封されたもの)を併せて提出してください。 指導要録の保存期間が経過した場合、廃校・被災その他の事情により調査書が得られない場合には、以下のとおり取り扱います。 (1) 「卒業証明書」及び「単位修得証明書」、又は「卒業証明書」及び「学籍に関する記録(各教科・科目等の修得単位数の記録含む)のみを証明した調査書」を提出してください。 (2) 上記(1)を提出できない場合は、「卒業証明書」及び学校長が作成した「単位修得証明書を発行できない旨の理由書」を提出してください。 (3) 廃校・被災その他の事情により、上記(1)(2)の書類も提出できない場合は、出身学校を所管する教育委員会、知事又は出身学校長が作成した「調査書等を発行できない旨の証明書」を提出してください。 また、改姓名等により現在の氏名と書類の氏名が異なる場合は、戸籍抄本等の公的機関が発行した書類の写を添付してください。 上記以外の者の調査書等については、17ページ『(注)「高等学校若しくは中等教育学校又は特別支援学校高等部を卒業及び卒業見込み」以外の調査書等について』のとおりとします。

9. 一般入試出願書類受付通知(はがき)	本要項添付の所定様式です。 前期日程用と後期日程用がありますので、いずれの試験日程に出願するかを十分確認し、誤りのないよう注意してください。 出願書類を受付した旨をお知らせするためのはがきです。 ① 郵便番号、住所、氏名、志望学部を記入してください。教育学部に出願する者のみ、志望課程・系・専攻を記入してください。 入学願書・電算処理票・受験票・写真票に記入した志望学部、志望課程・系・専攻であることを必ず確認してください。 ② 62 円切手 1 枚を糊で剥がれないように貼付してください。郵便料金が改定された場合は、改定後の通常はがきの郵便料金分の切手を貼付してください。 <u>複数の切手を貼付することはしないでください。そのようなスペースは用意されていません。</u>切手を重ねて貼付していた場合、出願者に届かない場合がありますのでご了承ください。 また、はがきを提出しなかった者、切手が不足していた者、切手を貼付していなかった者、住所を記入していない者には送付しません。
10. 宛名ラベル(シール)	本要項添付の所定様式です。 前期日程用と後期日程用がありますので、いずれの試験日程に出願するかを十分確認し、誤りのないよう注意してください。 合格通知書及び入学手続案内を送付する際の宛名ラベルです。 郵便番号、住所、氏名を記入してください。
11. 「受験票在中」封筒 (本学からの受験票送付用) (長形3号定形封筒)	本要項添付の所定様式です。 前期日程用と後期日程用がありますので、いずれの試験日程に出願するかを十分確認し、誤りのないよう注意してください。 本学から受験票を送付する際に使用する封筒です。 ① 362 円分の切手を 2 枚以内で 糊で剥がれないように貼付してください。郵便料金が改定された場合は、改定後の速達定形郵便物 (25 g 以内) の郵便料金分の切手を貼付してください。 <u>3 枚以上の切手を貼付することはしないでください。そのようなスペースは用意されていません。</u> <u>切手を重ねて貼付していた場合、出願者に届かない場合がありますので、必ず決められた枚数で貼付してください。</u>切手不足又は切手貼付忘れの場合は、入学願書の連絡先欄記載住所にゆうパック着払いにて送付する場合があります。 ② 郵便番号、住所、氏名、志望する学部を記入してください。入学願書・電算処理票・受験票・写真票に記入した志望学部であることを必ず確認してください。

12. 「入学願書在中」 封筒 (出願書類送付用) (角形2号定形封筒)	本要項添付の所定様式です。 <u>前期日程</u>用と<u>後期日程</u>用がありますので、いずれの試験日程に出願するかを十分確認し、誤りのないよう注意してください。 出願者が、出願書類を本学入試課に送付する際に使用する封筒です。必ず書留速達郵便で送付してください。 ① 表面下の「出願学部のチェック欄」に 1つ○を記入してください。入学願書・電算処理票・受験票・写真票に記入した志望学部、志望課程・系(専攻)であるかを必ず確認してください。 ② 裏面の「確認欄」に、出願書類を封入する前に出願書類が整っているかを必ず確認し、○をしてください。下部の「差出人欄」に出願者の郵便番号、住所、電話番号、氏名を記入してください。
---	---

重 要

教育学部学校教育教員養成課程実技系 音楽及び保健体育 志願者のみ

13. 音楽実技検査選択 種目提出票	本要項添付の所定様式です。 「教育学部学校教育教員養成課程実技系 音楽」に出願する者のみ、記入し提出してください。 27 ページの「実技検査内容」を確認してください。
14. 楽譜の写	「教育学部学校教育教員養成課程実技系 音楽」に出願する者のみ提出してください。 提出が必要な楽譜の詳細は、27 ページの「実技検査内容」及び「音楽実技検査選択種目提出票」の記入上の注意により確認してください。
15. 保健体育実技検査 選択種目提出 票	本要項添付の所定様式です。 「教育学部学校教育教員養成課程実技系 保健体育」に出願する者のみ、記入し提出してください。 27 ページの「実技検査内容」を確認してください。

(注)「高等学校若しくは中等教育学校又は特別支援学校高等部を卒業及び卒業見込み」以外の調査書等について

1. 高等専門学校第3年次修了者及び修了見込みの者並びに文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び修了見込みの者の調査書（学校長が作成し、厳封したもの）については、文部科学省所定の様式に準じて作成したものを提出してください。
2. 高等学校卒業程度認定試験合格者及び大学入学資格検定合格者は、合格成績証明書（合格証明書とは異なります）を提出してください。
なお、試験免除科目がある場合は、免除要件に係る証明書（高等学校等の調査書又は成績証明書、各種技能検定の合格証明書）を併せて提出してください。また、合格に必要な残りの試験科目に相当する科目の単位を平成30年3月31日までに高等学校等で修得見込みの者は、文部科学省が発行する合格見込成績証明書を提出してください。
3. 外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び修了見込みの者は、修了（見込）証明書及び成績証明書を提出してください。また、日本国の高等学校等に在学したことがある場合は、在学高等学校等の調査書（学校長が文部科学省所定の様式により作成し、厳封したもの）を併せて提出してください。
4. 文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科を修了した者及び修了見込みの者は、成績証明書及び修了（見込）証明書を提出してください。
5. 国際バカロレア資格を取得した者は、国際バカロレア資格証書の原本証明された写と国際バカロレア（IB）最終試験6科目の成績評価証明書を提出してください。
6. アビトゥア資格を取得した者は、アビトゥア資格取得者に授与される一般的大学入学資格証明書の原本証明された写を提出してください。
7. フランス共和国のバカロレア資格を取得した者は、バカロレア資格証書の原本証明された写とバカロレア資格試験成績証明書を提出してください。
8. 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者は、和歌山大学入学資格認定書の写を提出してください。
9. 出願資格に該当する者で、14ページ及び上記に記載がない場合は、出願資格を証明できる書類及び成績証明書を提出してください。

※証明書等が英語以外の外国語で作成されている場合、日本語又は英語に翻訳し、その内容が原本と相違ないことを大使館等で証明を受けたものを添付してください。

※成績証明書で、科目名、成績評価等が符号又は略字等により表示されている場合は、その説明書を添付してください。

(4) 出願上の注意事項

(共通事項)

1. 国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）の推薦入試合格者で入学手続を行った者及び当該大学の許可を得ずに入学を辞退した者は、個別学力検査等を受験しても合格者にはなりません。
2. 国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）のAO入試に合格し、入学手続を行った者及び当該大学の許可を得ずに入学を辞退した者は、個別学力検査等を受験しても合格者にはなりません。
3. 国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）の「前期日程」に合格し、入学手続を行った者は、「後期日程」を受験しても合格者にはなりません。
4. 国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うため、氏名及び大学入試センター試験の受験番号に限って、可否及び入学手続等に関する個人情報が、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達されます。
5. 出願書類に記入する文字は黒のボールペン書き（摩擦等の温度変化で筆跡が透明化するボールペンは使用不可）とし、楷書で正確に記入してください。
6. 出願書類に不備がある場合は、受付しないことがありますので十分注意してください。
7. 記載事項を訂正する時は、誤記部分を2本線で抹消しその上に訂正印を押印してください。修正液類の使用や紙面の削り取り等はしないでください。
8. 出願書類受付後の記載事項の変更は、認めません。ただし、出願後、転居等の理由により、入学願書、宛名ラベル（合格通知書・入学手続案内送付用）、「受験票在中」封筒（本学からの受験票送付用）に記入した住所、連絡先に変更があった場合は、直ちに和歌山大学入試課まで簡易書留速達郵便で届け出てください。
9. 受付された出願書類は、いかなる理由があっても返還しません。
10. 出願書類等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学許可を取り消すことがあります。
11. 出願時に大学に在籍している者が、入学試験後に合格し、本学に入学する場合には、在籍している大学を退学する必要があります。ただし、受験に際しては、この限りではありません。

(教育学部を志望する場合の出願上の注意事項)

1. 教育学部志望者は、「文科系」、「理科系」、「実技系 音楽又は美術」、「実技系 保健体育」からいずれか1つを出願時に選択してください。なお、実技系の募集は前期日程のみです。
2. 「文科系」志望者のうち、個別学力検査教科名「地理歴史」を受験しようとする者は、本要項添付の電算処理票の個別学力検査等科目を選択する際に、下記の「地理歴史」選択科目群から1科目を選択してください。
3. 「理科系」志望者のうち、個別学力検査教科名「理科」を受験しようとする者は、本要項添付の電算処理票の個別学力検査等科目を選択する際に、下記の「理科」選択科目群から1科目を選択してください。

(文科系)

「地理歴史」選択科目群：「日本史」、「世界史」、「地理」からいずれか1科目

(理科系)

「理科」選択科目群：「物理」、「化学」、「生物」、「地学」からいずれか1科目

受験上及び修学上の配慮を必要とする者の事前相談

障がいのある者等、受験上及び修学上の配慮を必要とする者は、事前に電話連絡した上で事前相談の申請をしてください。「点字解答」又は「代筆解答」を希望する場合は、準備に相当な期間を要しますので、なるべく早く相談してください。

日常生活において、ごく普通に使用している補聴器、松葉杖、車椅子等を使用して受験する場合も、受験上の配慮として申請してください。

また、出願受付締切後の不慮の事故等による負傷者についても、受験上及び修学上の配慮が必要となった場合は、その時点で速やかに申し出てください。

申請方法

事前に電話連絡した上で、申請期限までに次の事項を記載した申請書（A4用紙に下記必要事項を明記）及び必要書類を本学入試課に提出してください。

持参・郵送により受付します。持参の場合は、原則として9時から17時（12時から13時を除く）までとします。郵送で送付する場合は、必ず「書留速達」郵便で送付してください。

申請期限

点字等受験上の特別な準備を必要とする者については、平成29年12月11日（月）までに下記申請書及び必要書類を提出してください。受験上の特別な準備を要しないその他の配慮を必要とする者は、原則として平成30年1月17日（水）までに申請してください。内容によっては対応に時間を要しますので、できるだけ早い時期に相談してください。

なお、場合により、志願者又はその立場を代弁し得る出身学校等関係者と面談を行います。

申請書の記載内容

	内容	備考
全員	志願者氏名（ふりがな）	例外として、志願者が負傷等により自ら申請することができない場合は、志願者氏名に代理人氏名（父母又は出身学校担任）を併記してください。
全員	志願者郵便番号及び住所	
全員	志願者電話番号	
全員	出身学校名	
該当者のみ	卒業年月日又は卒業見込年月日	
全員	出願予定の試験日程及び学部・学科・課程・系・実技系の場合は音楽・美術・保健体育のいずれか	「前期日程」及び「後期日程」の別を記載してください。 いずれの日程も出願予定の場合は、二つの日程を併記してください。 <u>出願を予定している試験日程ごとに</u> 出願予定学部、学科・課程・系・実技系の場合は音楽・美術・保健体育のいずれかを記載してください。学部名以外は予定で差し支えありません。
該当者のみ	受験上の配慮を希望する事項	できるだけ詳細に記入してください。
該当者のみ	修学上の配慮を希望する事項	
該当者のみ	出身学校でとられていた配慮	担任教諭の氏名・所見が記入されたもの

【参考】申請書様式例 必ず「申請書の記載内容」の表を確認し整えてください。

(必ずA4判で提出してください) 和歌山大学長 殿 記 1. 出身学校名 2. 卒業年月日又は卒業見込年月日 3. 出願予定の試験日程及び学部・学科・課程・系・実技系の場合は音楽・美術・保健体育のいずれか 4. 受験上の配慮を希望する事項 5. 修学上の配慮を希望する事項 6. 出身学校でとられていた配慮 担任氏名 所見 (添付書類) 大学入試センター試験「受験上の配慮事項決定通知書」の写、医師の診断書の写	平成 年 月 日
--	---

必要書類 ※別途必要書類を求める場合があります。

	内容	備考
全員	医師の診断書の写	障がい等の名称・種類・程度、具体的な症状とその経過、日常生活上（特に修学上）の支障の程度、受験に際し想定される問題について記載された診断書の写を添付してください。大学入試センター試験の受験上の配慮を申請した者は、申請時に添付した診断書の写を添付しても構いません。
該当者のみ	大学入試センター試験「受験上の配慮事項決定通知書」の写	<u>大学入試センター試験から「受験上の配慮事項決定通知書」の交付を受けた者は、その写を必ず添付してください。</u>
該当者のみ	障がい者手帳の写	

連絡及び申請書提出先

〒640-8510 和歌山市栄谷 930 番地

和歌山大学入試課

TEL 073-457-7117

受験票の発送予定

1. 「和歌山大学入学者選抜受験票」は、2月13日（火）に発送予定です（到着予定日ではありません）。
2月20日（火）までに到着しない場合は、入試課（☎ 073-457-7117）に問い合わせてください。
2. 「和歌山大学入学者選抜受験票」及び「大学入試センター試験受験票」は、個別学力検査等の受験、入学手続、入試成績等の本人開示の際に必要となりますので、試験終了後、入学後も大切に保管してください。

入学者選抜実施教科・科目等

教科・科目名の表記

本学における大学入試センター試験の利用教科・科目名は、次のように一部略記しています。

() 内は正式名称です。

教科名	グループ	科目名
国（国語）		国（国語）
地歴（地理歴史）		世 A（世界史 A）、世 B（世界史 B）、日 A（日本史 A）、日 B（日本史 B）、地理 A、地理 B
公民		現社（現代社会）、倫（倫理）、政経（政治・経済）、倫・政経（倫理、政治・経済）
数（数学）	①	数 I（数学 I）、数 I・数 A（数学 I・数学 A）
	②	数 II（数学 II）、数 II・数 B（数学 II・数学 B）、簿（簿記・会計）、情報（情報関係基礎）
理（理科）	①	物基（物理基礎）、化基（化学基礎）、生基（生物基礎）、地基（地学基礎）
	②	物（物理）、化（化学）、生（生物）、地（地学）
外（外国語）		英（英語）、独（ドイツ語）、仏（フランス語）、中（中国語）、韓（韓国語）

本学における個別学力検査の教科・科目名は、次のように一部略記しています。

() 内は正式名称です。

教科名	科目名
国（国語）	国語総合
地歴（地理歴史）	世 B（世界史 B）、日 B（日本史 B）、地理 B
数（数学）	数 I（数学 I）、数 II（数学 II）、数 III（数学 III）、数 A（数学 A）、数 B（数学 B）、簿（簿記）
理（理科）	物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物、地学基礎・地学
外（外国語）	コミュ英 I（コミュニケーション英語 I）、コミュ英 II（コミュニケーション英語 II）、コミュ英 III（コミュニケーション英語 III）、英表 I（英語表現 I）

（1）教育学部

入学者選抜実施教科・科目等

学部・学科等名及び入学定員等			学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名			個 別 学 力 検 査 等					大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験 ・ 個 別 学 力 検 査 等 の 配 点 等							特 別 の 入試方法 等				
教育学部 165人 前期 100 後期 35 その他 30	文科系 70人 前期 45 後期 25	国 地歴 公民 数 理 外	教科 科目等	教科 科目等	国語総合 世B、日B、地理Bから1 コミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・ コミュ英Ⅲ・英表Ⅰ 【2教科】	2段階選 抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合 問題	小論文	実技	配点 合計	推薦 追加合格					
								200	*100 *100	*100 *100	200	100	200										
								*200	*200														
								200 *200	*100 *100 *200	*100 *100 *100	200	100	200 *200	200 *200									
								200 *200	*100 *100	*100 *100	200	100	200 *200	200 *200									
理学部 45人 前期 35 後期 10	理科系	国 地歴 公民 数 理 外	教科 科目等	教科 科目等	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B 物理基礎・物理、化学基礎・化学、 生物基礎・生物、地学基礎・地学から1 【2教科】		試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合 問題	小論文	実技	配点 合計						
								200	*100 *100	*100 *100	200	200	200										
								*200	*200														
								200 *200	*100 *100 *200	*100 *100 *100	200	100	200 *200	200 *200									
								200 *200	*100 *100	*100 *100	200	100	200 *200	200 *200									
学校 教 育 教 員 養 成 課 程	実技系 「音楽又は美術」 前期 10人	国 地歴 公民 数 理 外	教科 科目等	教科 科目等	実技検査 ＜詳細は、P27を参照してください。＞		試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合 問題	小論文	実技	配点 合計						
								200	*100 *100	*100 *100	200	100	200										
								*200	*200														
								200 *200	*100 *100 *200	*100 *100 *100	200	100	200 *200	200 *200									
								200 *200	*100 *100	*100 *100	200	100	200 *200	200 *200									
保健体育部 10人 前期 10人	実技系 「保健体育」 前期 10人	国 地歴 公民 数 理 外	教科 科目等	教科 科目等	実技検査 ＜詳細は、P27を参照してください。＞		試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合 問題	小論文	実技	配点 合計						
								200	*100 *100	*100 *100	200	100	200										
								*200	*200														
								200 *200	*100 *100 *200	*100 *100 *100	200	100	200 *200	200 *200									
								200 *200	*100 *100	*100 *100	200	100	200 *200	200 *200									

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

以下の説明において、「理科」で基礎を付した科目を「理①」、基礎を付していない科目を「理②」とします。

[前期日程・後期日程共通]

1. 外国語の「英語」において、筆記試験とリスニングを課します（リスニングが免除となった場合を除き、筆記試験及びリスニングの両方を受験している場合のみ、英語を受験したことになります）。

[学校教育教員養成課程（文科系）（前期日程・後期日程）]

1. 「理科」において、「理②」2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。
2. 「理科」において、「理①」と「理②」の両方を受験した場合は、「理①」の2科目合計得点又は「理②」の得点のいずれか高い方の得点を採用します。

[学校教育教員養成課程（理科系）（前期日程・後期日程）]

1. 「地歴」、「公民」において、2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。

[学校教育教員養成課程（実技系）（前期日程）]※

1. 「地歴」、「公民」及び「理科」において、以下のa、b、cのうち、いずれかの組合せとします。
 - a. 「地歴」、「公民」から2科目と「理①」から2科目の組合せ
 - b. 「地歴」、「公民」から2科目と「理②」から1科目の組合せ
 - c. 「地歴」、「公民」から1科目と「理②」から2科目の組合せ
2. 「地歴」、「公民」から2科目受験した場合で、「理科」において、「理①」と「理②」の両方を受験した場合は、「理①」の2科目合計得点又は「理②」の得点のいずれか高い方の得点を採用します。
3. 「地歴」、「公民」から2科目かつ「理②」から2科目受験した場合は、以下のa、bのうち、いずれか高得点の組合せを採用します。
 - a. 「地歴」、「公民」の2科目と「理②」の第1解答科目の組合せ
 - b. 「地歴」、「公民」の第1解答科目と「理②」の2科目の組合せ

【個別学力検査等】欄

1. 国語総合は、近代以降の文章、古典（古文、漢文）から出題します。
2. 数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Aは、全範囲を出題範囲とします。数学Bは、数列、ベクトルを出題範囲とします。
3. 英語表現Ⅰは、リスニングを出題範囲から除きます。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

1. 配点に*印を付してある教科は、選択教科を表します。
2. 大学入試センター試験 外国語の「英語」において、筆記試験（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計点を0.8倍（200点満点）に圧縮したものを英語の得点とします。ただし、重度難聴者等でリスニングが免除となった場合は、筆記試験（200点満点）の得点を圧縮せず、そのまま英語の得点とします。
3. 実技系の選抜にあたっては、実技検査の得点が200点に達しない者は総合点にかかわらず不合格とします。

実技検査内容

課 程 ・ 系		学校教育教員養成課程実技系		
実 施 日 程		前期日程		
専攻	区分	選択種目	検 査 内 容	注意事項
音 楽	実技Ⅰ群	A. 声楽	○次の曲を原語・暗譜で演奏してください。 ○調性は任意で良いが、演奏する調性の伴奏用の 楽譜のコピー を入学願書等とともに1部提出してください。(伴奏者は大学側が用意します。) T. ジョルダニー作曲 「Caro mio ben (いとしい女よ)」 高中声用は全音楽譜出版社刊『イタリア歌曲集1』、低声用はカワイ出版刊『古典イタリア歌曲集5』を使用してください。	<u>選択種目提出票（本要項添付所定様式）を出願時に提出してください。</u> 選択種目の組合せ 選択種目の組合せは以下の3とおりとします。 いずれかひとつの組合せを選択し、「音楽実技検査選択種目提出票」に記入してください。
		B. ピアノ	○次の曲を暗譜で演奏してください。(くり返しは省略します。) L. van ベートーヴェン作曲「ピアノソナタ No. 5 Op. 10-1 第1楽章」	
		C. 管・打楽器	○任意の1曲を無伴奏で演奏してください。 ○暗譜の必要はありません。(演奏時間が長い場合は、途中でカットすることがあります。) ○演奏する楽曲の 楽譜のコピー を入学願書等とともに1部提出してください。 ○楽器及び演奏に必要なものは各自持参してください。但し、マリンバの場合、大学で用意する楽器(サイト MS-75〈4オクターヴ、49鍵、C28～C76〉)で演奏してください。 【受験可能楽器】 フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォーン、ホルン、トランペット、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ、マリンバ、スネア・ドラムからひとつを選択	
	実技Ⅱ群	1. 声楽	○次の曲を暗譜の上、母音の a で演奏してください。 ○調性は任意で良いが、演奏する調性の伴奏用の 楽譜のコピー を入学願書等とともに1部提出してください。(伴奏者は大学側が用意します。) 『コンコーネ 50 番』より 6 番 〔全音楽譜出版社刊『コンコーネ 50 番』を使用してください。〕	A と 2、B と 1、C と 2
		2. ピアノ	○次の曲を暗譜で演奏してください。(くり返しは省略します。) L. van ベートーヴェン作曲「ピアノソナタ No. 20 Op49-2 第1楽章」	
	美 術	共 通 〔全員が受験してください。〕	造形表現Ⅰ（平面） 与えられたモチーフを配置し、鉛筆を用いて素描してください。 (試験時間：120分)	
		造形表現Ⅱ（立体） 与えられた主題を、配付された素材（紙）の特性を生かして立体的に表現してください。 (試験時間：180分)		
保 健 体 育	共 通 〔全員が受験してください。〕	〔基礎運動能力テスト〕 1. 12 分間走 2. 立ち幅跳び 3. ハンドボール投げ 4. マット運動		<u>選択種目提出票（本要項添付所定様式）を出願時に提出してください。</u> 雨天の場合は基礎運動能力テストの種目に一部変更があります。 ○体育館シューズを用意してください。 ○各種目に応じたシューズの使用を認めます。 ○バドミントン・テニス受験者はラケットの持参を認めます。 ○柔道受験者は柔道衣を持参してください。 ○野球受験者はグローブ、バット、ヘルメットを持参してください。
	選 択 〔右の選択種目別実技テストの 10 種目から 1 種目を選択し、「保健体育実技検査選択種目提出票」に記入してください。陸上競技選択者は、内訳からも 1 種目選択し記入してください。〕	〔選択種目別 実技テスト〕 1. 陸上競技(100m 走、800m 走、走幅跳、走高跳、砲丸投、槍投、ハンマー投、円盤投から 1 種目) 2. バスケットボール 3. バレーボール 4. サッカー 5. 柔道 6. バドミントン 7. 創作ダンス 8. 野球(硬式) 9. ハンドボール 10. テニス(硬式)		

(2) 経済学部

入学者選抜実施教科・科目等

学部・学科等名及び入学定員等 等の区分		大学入試センター試験の利用教科・科目名		個 別 学 力 検 査 等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等										特 別 の 入試方法 等	
・日程		教科 グループ	科 目 名 等	教科 等	科 目 名 等	2段階 選 抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合 問題	小論文	実技	配点 合計
経済学部 前期 300人 後期 180 その他 80 40	経済学科	国	国	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B、簿から1 コミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・ コミュ英Ⅲ・英表Ⅰ		センター試験	200	100 *100	*100	200	100	200				900
		地歴	世B、日B、地理Bから1又は2 現社、倫、政経、倫・政経から0又は1 } から2	外			個別学力検査 等										
		公民	数Ⅰ、数Ⅰ・数Aから1 数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報から1 物基、化基、生基、地基から2 又は 物、化、生、地 から1 英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1														
		数	【6教科8(7)科目又は5教科8(7)科目】		計		200	100 *100	*100	(800) (500)	100	(500) (800)				1800	
		国	国	その他	その小論文 (社会科学を学ぶ上で必要な理解力、 論理的な思考力、表現力を問う。)		センター試験	*100	*100 *100	*100	*100	*100	400				600
		地歴	世A、世B、日A、日B、地理A、地理Bから1又は2 現社、倫、政経、倫・政経から1 数Ⅰ、数Ⅰ・数Aから1 数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報から1 物基、化基、生基、地基から2 又は 物、化、生、地 から1 英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1				個別学力検査 等										
		公民	【3教科4(3)科目又は2教科3科目】				計	*100	*100 *100	*100	*100	*100	400				1800
		数															

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

以下の説明において、「数学」で【数Ⅰ、数Ⅰ・数A】を「数①」とし、【数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報】を「数②」とします。「理科」で基礎を付した科目を「理①」、基礎を付していない科目を「理②」とします。

【前期日程・後期日程共通】

1. 外国語の「英語」において、筆記試験とリスニングを課します（リスニングが免除となった場合を除き、筆記試験及びリスニングの両方を受験している場合のみ、英語を受験したことになります）。

【前期日程】

1. 「地歴」【世B、日B、地理B】から必ず1科目以上を受験してください。

2. 「理科」において、「理②」2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。

3. 「理科」において、「理①」と「理②」の両方を受験した場合は、「理①」の2科目合計得点又は「理②」の得点のいずれか高い方の得点を採用します。

【後期日程】

指定教科数・科目数を超えて受験している場合には、次のa、b、cの中から最も高得点となる組合せを採用します。

- 「地歴」2科目の組合せ
- 「地歴」1科目と「公民」1科目の組合せ
- 以下から2つの組合せ
 - 「国」
 - 「地歴」、「公民」の第1解答科目
 - 「数①」
 - 「数②」

・「理①」2科目の合計得点又は「理②」第1解答科目の得点のいずれか高い方

【個別学力検査等】欄

1. 数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Aは、全範囲を出題範囲とします。数学Bは、数列、ベクトルを出題範囲とします。

2. 英語表現Ⅰは、リスニングを出題範囲から除きます。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

1. 配点に*印を付してある教科は、選択教科を表します。

2. 大学入試センター試験 外国語の「英語」において、筆記試験（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計点を0.8倍（200点満点）に圧縮したものを英語の得点とし、本学部が定めている配点に換算します。ただし、重度難聴者等でリスニングが免除となった場合は、筆記試験（200点満点）の得点を圧縮せず、そのまま英語の得点とし、本学部が定めている配点に換算します。

3. 前期日程の個別学力検査において、「数学」「外国語」は各300点とし、高得点の教科の得点を2倍にします。

(3) システム工学部

入学者選抜実施教科・科目等

学部・学科等名及び入学定員等		学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等										特別の入試方法等	
			教科グループ	科目名等	教科等	科目名等	2段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合問題	小論文	実技	配点合計	
システム工学部 305人 前期 170 後期 100 その他 35	システム工学科	前期 2月25日	国	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1	数外	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B コミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・ コミュ英Ⅲ・英表Ⅰ		センター試験	200	*100	*100	200	400	200				1100	推薦 私費外国 人留学生
			地歴 公民	数Ⅰ、数Ⅰ・数Aから1 数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報から1 ② 物、化、生、地から2 ② 理 英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1				個別学力検査等				200						400	追加合格
				計				200	*100	*100	400	400	400					1500	
		後期 3月12日	国	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1	その他	総合問題 「記述解答問題」 (システム工学を学ぶにふさわしい能力・ 適性等を判断する。) ＜詳細は、P32を参照してください。＞		センター試験	200	*100	*100	300	300	200				1100	
地歴 公民	数Ⅰ、数Ⅰ・数Aから1 数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報から1 ② 物、化、生、地から2 ② 理 英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1		個別学力検査等								400				400				
	計		200	*100				*100	300	300	200	400				1500			

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

- 外国語の「英語」において、筆記試験とリスニングを課します（リスニングが免除となった場合を除き、筆記試験及びリスニングの両方を受験している場合のみ、英語を受験したことになります）。
- 「地歴」、「公民」において、2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。

【個別学力検査等】欄

- 数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Aは、全範囲を出題範囲とします。数学Bは、数列、ベクトルを出題範囲とします。
- 英語表現Ⅰは、リスニングを出題範囲から除きます。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

- 配点に*印を付してある教科は、選択教科を表します。
- 大学入試センター試験 外国語の「英語」において、筆記試験（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計点を0.8倍（200点満点）に圧縮したものを英語の得点とします。ただし、重度難聴者等でリスニングが免除となった場合は、筆記試験（200点満点）の得点を圧縮せず、そのまま英語の得点とします。

総合問題の出題内容

総合問題では、教科ごとの学習到達度だけではなく、問題に対する総合的な分析力・応用力を問います。
システム工学を学ぶにふさわしい能力・適性等を判断します。

出題内容は以下のとおりとします。

学 科	出 題 内 容	注 意 事 項
システム工学科	ものごとを科学的視点でとらえ、筋道をたてて論理的に分析し、その結果を総合的に判断して表現する能力を問います。具体的には、 ○数学的思考を問う論述問題 ○図表を読み取る論述問題 ○物理的思考を問う論述問題 が出題されます。	○数学的思考を問う論述問題 ○図表を読み取る論述問題 ○物理的思考を問う論述問題 上記のうち、2 題を選択し解答します（選択は問題を見てから決めることができます）。

(4) 観光学部

入学者選抜実施教科・科目等

学部・学科等名及び入学定員等		学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											特別の入試方法等	
観光学部 前期 120人 後期 55人 その他 28人 その他 37人	観光学科	前期 2月25日 後期 3月12日	教科 グループ	科目名等	教科等	科目名等	2段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合問題	小論文	実技	配点 合計	推薦 社会人 AO 私費外国 人留学生 追加合格	
			国 地歴 公民 数 理 外	国 世B、日B、地理Bから1又は2 現社、倫、政経、倫・政経から0又は1 } から2 数Ⅰ、数Ⅰ・数Aから1 数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報から1 ① 物基、化基、生基、地基から2 ② 又は 物、化、生、地 から1 英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1	国 数 外	国語総合 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B } から1 コミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・ コミュ英Ⅲ・英表Ⅰ		センター試験 個別学力検査 等	200 *300	100 *100	*100 *100	200 *300	100 *100	200 *300						900 600
								計	200 *300	100 *100	*100 *100	200 *300	100 *100	500						1500
								センター試験 個別学力検査 等	*100 *100	*100 *100	*100 *100	*100 *100	*100 *100	400						600
								計	*100 *100	*100 *100	*100 *100	*100 *100	*100 *100	400	400					1000

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

以下の説明において、「数学」で「数Ⅰ、数Ⅱ・数A」を「数①」とし、「数Ⅱ、数Ⅲ・数B、簿、情報」を「数②」とします。「理科」で基礎を付した科目を「理①」、基礎を付していない科目を「理②」とします。

〔前期日程・後期日程共通〕

1. 「外国語」の「英語」において、筆記試験とリスニングを課します（リスニングが免除となった場合を除き、筆記試験及びリスニングの両方を受験している場合のみ、英語を受験したことになります）。

〔前期日程〕

1. 「地歴」「世B、日B、地理B」から必ず1科目以上を受験してください。

2. 「理科」において、「理②」2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。

3. 「理科」において、「理①」と「理②」の両方を受験した場合は、「理①」の2科目合計得点又は「理②」の得点のいずれか高い方の得点を採用します。

〔後期日程〕

指定教科数・科目数を超えて受験している場合には、次のa、bの中から最も高得点となる組合せを採用します。

a. 「地歴」、「公民」から2科目の組合せ

b. 以下から2つの組合せ

- ・ 「国」
- ・ 「地歴」、「公民」の第1解答科目
- ・ 「数①」
- ・ 「数②」
- ・ 「理①」2科目の合計得点又は「理②」第1解答科目の得点のいずれか高い方

【個別学力検査等】欄

1. 国語総合は、近代以降の文章、古典（古文、漢文）から出題します。

2. 数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Aは、全範囲を出題範囲とします。数学Bは、数列、ベクトルを出題範囲とします。

3. 英語表現Ⅰは、リスニングを出題範囲から除きます。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

1. 配点に*印を付してある教科は、選択教科を表します。

2. 大学入試センター試験 外国語の「英語」において、筆記試験（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計点を0.8倍（200点満点）に圧縮したものを英語の得点とし、本学部が定めている配点に換算します。ただし、重度難聴者等でリスニングが免除となつた場合は、筆記試験（200点満点）の得点を圧縮せず、そのまま英語の得点とし、本学部が定めている配点に換算します。

個別学力検査等の試験場及び試験日時

1. 試験場

和歌山大学 栄谷キャンパス（和歌山市栄谷930）

本冊子の裏表紙に本学への交通アクセスを掲載していますので、参照してください。

試験当日のバスは、JR 和歌山駅前、南海和歌山市駅前、南海和歌山大学前駅前から定期便の他に臨時便が運行されます。混雑が予想されますので余裕を持って乗車してください。

なお、試験当日の臨時バス等の時刻表は、2月中旬頃に本学ホームページ「入試情報」に掲載を予定しています。

2. 試験日時

（1）前期日程：平成30年2月25日（日）

学 部	試験時間		
教 育 学 部	地理歴史	理 科	10：00 ～ 11：30
	外 国 語		12：40 ～ 14：10
	国 語	数 学	15：00 ～ 16：30
	実 技 検 査（注1）		10：00 ～ 16：20
経 済 学 部	外 国 語		12：40 ～ 14：10
	数 学		15：00 ～ 16：30
システム工学部	外 国 語		12：40 ～ 14：10
	数 学		15：00 ～ 17：00
観 光 学 部	外 国 語		12：40 ～ 14：10
	国 語	数 学	15：00 ～ 16：30

（注1） 教育学部 学校教育教員養成課程実技系の実技検査における終了時間は、最長の場合の終了時間を示しています。ただし、志願者数及び進行状況により早くなる場合があります。

（2）後期日程：平成30年3月12日（月）

学 部	試験時間	
教育学部	小 論 文	10：00 ～ 12：00
経 済 学 部	小 論 文	10：00 ～ 11：30
システム工学部	総 合 問 題	10：00 ～ 12：00
観 光 学 部	小 論 文	10：00 ～ 11：30

受験上の注意

共通注意事項

1. 試験当日は、「和歌山大学入学者選抜受験票（以下「和歌山大学受験票」）」及び「平成 30 年度大学入試センター試験受験票」を必ず持参・携帯し、試験場に入場する際、あるいは本学係員の指示に応じ提示してください。試験室の所定の座席に着席後は、机の上に置いてください。実技検査の場合は監督者の指示に従ってください。なお、受験票を忘失・紛失した場合には、試験場入口の本学係員に申し出て再発行等の措置を受けてください。
2. あらかじめ、試験場の所在地及び所要時間を確認しておいてください。試験日の前日は入構禁止です。
3. 試験当日は正門（バス停）側進入路から入構してください。北側進入路（システム工学部裏側）等他の進入路からは入構できません。
4. 交通事情等を考慮し、余裕をもって試験場に到着するようにしてください。
5. 試験場内には自動車・バイク等の乗り入れはできません。
6. 付添者は、試験場内に立ち入ることはできません。
7. 遠方の受験者にあっては、大雪や風などによって飛行機、船、列車等が通常のとおり運行されない事態も起こり得ますので、あらかじめ気象状況や交通機関の運行状況を把握し、数日前から試験場近郊に滞在するなどの対応をとってください。
8. 試験室等の位置は、試験当日に試験場入口に掲示します。
9. **試験開始時刻の 30 分前までに入室してください。監督者による説明が始まります。**
10. 試験室では、机の上に表示している受験番号が受験票の受験番号と同一であることを確認し、着席してください。
11. 遅刻した場合は、試験開始時刻後 30 分以内に限り受験を認めます。
12. 試験当日に公共交通機関（電車等）で事故等が生じて運行停止となるなどの事情により、試験開始時刻までに試験場に赴くことが困難な場合には、直ちに和歌山大学入試課までそのことを連絡するとともに、その旨を試験場入口本学係員に申し出てください。交通機関の事故等による事情であることが証明できる書類（公共交通機関が発行する遅延証明書等）の交付を受けてください。
13. 試験開始から試験終了まで退室は認めません。
14. 体調不良やトイレ等、やむを得ない場合は、举手し、監督者の指示に従ってください。
15. スマートフォン、携帯電話は、試験室に入る前にアラームの設定を解除し、電源を切ってください。時計の代わりとして利用することを禁じます。
16. 個別学力検査等試験時間中（実技検査を除く）、机の上に置くことのできるものは、「和歌山大学受験票」、「平成 30 年度大学入試センター試験受験票」、鉛筆、万年筆、ボールペン、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り、時計（時計機能のみのもの）です。
17. 飲み物等はかばんに入れてください。
18. 所持品、コート類は、各自機の横の床上に整理して置いてください。机の中は利用できません。
19. 寒い場合は、コート類を着用しても差し支えありません。
20. 英文字や地図等がプリントされている上着等の着用は認めない場合があります。
21. 試験中、受験者間での物品の貸借を禁じます。
22. **出願時に届け出た科目以外を受験することはできません。**
23. 問題冊子や解答用紙に不備があれば、举手して監督者に教えてください。
24. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。解答用紙は持ち帰れません。

25. 不正行為の取扱いについては、大学入試センター試験に準じて行います。試験中に不正行為が判明した場合は、不正行為を行った受験者の受験の中止と退室を命じ、その後の受験を認めません。また、本学の当該試験日程で受験した全ての個別学力検査等の成績を無効とします。
26. 最寄りの駅、バス停、和歌山大学周辺等での合否電報（電子メールを利用した合否連絡等の類似行為を含む）の予約等について、本学は一切関与しておりません。

前期日程の注意事項

1. 教育学部の受験者は、受験しない科目の試験時間中に試験室を利用できません。
2. 経済学部「簿記」の受験者は「簿記」の受験に際し、そろばん又は電子卓上計算機（電池式で記録紙・信号音の出ないもの）の使用を認めます。

不測の事態が生じた場合の対応

公共交通機関の大幅な乱れや自然災害の影響等により、所定の日程による試験実施が困難となるような不測の事態が生じた場合は、本学ホームページにてお知らせします。

和歌山大学ホームページ「入試情報」 <http://www.wakayama-u.ac.jp/admission/>

受験者の宿泊について

受験者の宿泊については、本学では幹旋しません。各自で手配してください。

合格者発表

下記の合格者発表日時に、全学部の合格者の受験番号を本学構内掲示板に掲示するとともに、合格者には合格者発表日午前中に「合格通知書」及び「入学手続案内等」を送付します。不合格者への通知は行いません。

掲示場所は、当日案内します。

なお、合否等の電話・メール等による問合せには応じません。

試験日程区分	日 時
前期日程	平成 30 年 3 月 6 日（火）午前 9 時
後期日程	平成 30 年 3 月 21 日（水）午前 9 時

合格者の情報提供

各試験日程の合格者発表後、本学ホームページで全学部の合格者受験番号をお知らせします。

本学ホームページでの発表は、本学の情報提供の一環として行うものであり、公式の合格者発表は合格通知書の郵送及び本学掲示板による掲示となります。

和歌山大学ホームページ「入試情報」

<http://www.wakayama-u.ac.jp/admission/>

【掲載期間】

前期日程：3 月 6 日（火）正午～3 月 9 日（金）正午まで

後期日程：3 月 21 日（水）正午～3 月 23 日（金）正午まで

掲載開始時間は多少前後することがあります。

掲載期間中は、インターネット回線の混雑により本学ホームページに繋がりにくいことがあります。

入学手続

合格通知を受けた者は、入学手続期間内に入学手続を行ってください。入学手続の詳細は、合格通知書とともに送付する「入学手続案内」で指示します。

入学手続方法

「入学手続案内」を熟読の上、必要書類等を整え、「持参による方法」又は「郵送による方法」により行ってください。郵送による場合は、書留速達郵便で入学手続期間【時間厳守】までに本学必着するように郵送してください。

入学手続期間

試験日程区分	日時
前期日程	平成 30 年 3 月 14 日（水）から 3 月 15 日（木） 9 時 30 分～17 時まで
後期日程	平成 30 年 3 月 26 日（月）から 3 月 27 日（火） 9 時 30 分～17 時まで

提出書類

提出書類	備考
大学入試センター試験受験票	照合し、入学手続完了後押印の上、返却します。
和歌山大学受験票	照合し、入学手続完了後返却します。
合格通知書	照合し、入学手続完了後返却します。
入学料	282,000 円 （下記注参照） 本学所定の振込依頼書により、入学手続時までに納入してください。 平成 30 年度入学者の納入金額及び納入方法の詳細は「入学手続案内」でお知らせします。
その他	上記以外の必要書類は、「入学手続案内」で指示します。

注 1 上記記載の金額は、平成 29 年 4 月現在のものです。

注 2 入学料の改定が行われた場合には、改定後の金額を納入することになります。

注 3 既納の入学料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。

（ア）誤って二重に納入した場合

（イ）入学手続を行わなかった又は完了しなかった場合

注 4 入学料の納入のみでは、入学手続を完了したことにはなりません。

入学前の主な諸経費（単位：円）

諸経費	教育学部	経済学部	システム工学部	観光学部
学会費・同窓会費・後援会費	37,000	52,000	32,000	52,000
研修・実習経費	12,000	20,000		23,000
学生団体諸会費	20,500	20,500	20,500	20,500

注 1 上記記載の金額は、平成 29 年 4 月入学者のものです。平成 30 年 4 月入学者の納付金額については、決定次第、別途お知らせします。

入学後に必要な納付金

授業料 半期分 267,900 円 年額 535,800 円

注 1 上記記載の金額は、平成 29 年 4 月現在のものです。

注 2 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

注 3 平成 30 年度入学者の納付金額については、決定次第、別途お知らせします。

入学手続に関する注意事項

1. 入学手続期間中に入学手続を完了しない場合は、本学への入学を辞退したものとして取り扱います。
2. 本学の入学手続を完了した者は、これを取り消して他の国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）に入学手続をすることはできません。また同様に、他の国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）に入学手続を完了した者は、これを取り消して本学に入学手続をすることはできません。
3. 「前期日程」合格者が入学手続を完了した場合は、国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）の「後期日程」を受験しても、当該大学の合格者にはなりません。
4. 入学手続完了後、高等学校等の課程を卒業（修了）しないなどの事由が生じた場合は、入学許可を取り消します。
5. 入学手続完了後、理由の如何に関わらず入学を辞退する場合は、平成 30 年 3 月 30 日（金）17 時までに「入学辞退願」を本学入試課に提出し、その許可を得てください。入学手続完了後に入学を辞退した場合は、入学料の返還はできません。平成 30 年 3 月 30 日（金）17 時を超えての「入学辞退願」は受付しませんので注意してください。

欠員補充

合格者又は入学手続完了者が入学定員に満たない場合は、「追加合格」又は「欠員補充第 2 次募集」による欠員補充を行うことがあります。

追加合格又は欠員補充第 2 次募集実施の有無の情報提供

本学ホームページ「入試情報」<http://www.wakayama-u.ac.jp/admission/>で全学部の追加合格又は欠員補充第 2 次募集の実施の有無をお知らせします。

【追加合格の実施の有無 掲載期間】

平成 30 年 3 月 28 日（水）午前 9 時～3 月 30 日（金）まで

【欠員補充第 2 次募集実施の有無 掲載期間】

掲載日時未定

掲載開始時間は多少前後することがあります。

追加合格

1. 入学手続完了者が入学定員に満たない場合は、前期日程又は後期日程のいずれかの選抜の不合格者の中から合格者の追加を行うことがあります。
2. 他の国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）に入学手続を完了した者は、それを取り消して本学への入学手続を行うことはできません。
なお、本学の前期日程合格者のうち入学手続を完了しなかった者は、当該学部の前期日程の追加合格の対象となりません。
また、本学の後期日程合格者のうち当該学部の入学手続を完了しなかった者は、当該学部の後期日程の追加合格の対象となりません。
3. 追加合格候補者には、平成 30 年 3 月 28 日（水）から 3 月 30 日（金）までの間に、入学願書に記載した「追加合格連絡先」へ、電話等により直接本人に対してのみ行います。本学からの連絡が確実に受けられるよう所在を明らかにしておいてください。
4. 追加合格候補者は発表しません。電話等の問合せには応じません。
5. 出願後、入学願書に記載した「追加合格連絡先」に変更がある場合は、速やかに和歌山大学入試課に届け出てください。
6. 本人の不在や「追加合格連絡先」の変更の届出がないなどの理由により、追加合格候補者の通知ができなかった場合は、追加合格者としての取扱いが無かったものとする場合があります。

欠員補充第 2 次募集

合格者又は入学手続完了者が入学定員に満たない場合は、必要に応じ「欠員補充第 2 次募集」を行うことがあります。

なお、実施する場合の募集人員、出願資格、出願期間、出願手続、入学者選抜方法、合格者発表及び入学手続等は、本学ホームページ「入試情報」に掲載する「欠員補充第 2 次学生募集要項」により確認してください。

個人情報 の 取扱い

本学が保有する個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」等の法令を遵守するとともに、「国立大学法人和歌山大学における個人情報の保護に関する規程」等に基づき、厳密に取り扱います。

1. 出願書類等に記載された個人情報は、「入学者選抜（出願処理、選抜試験実施）」、「合格者発表」、「入学手続」の入試業務、「入試の改善や志願動向等の調査・研究」、「その他の本学における諸調査・研究等」を行うために利用します。出願書類等に不備があった場合には、その訂正・補完を迅速に行っていただくために、本学に出願していることを、保護者等又は出身学校に連絡する場合があります。

なお、入学者については、「入学者の受入準備」、「教務関係（学籍管理、修学指導等）」、「学生支援関係（健康管理、授業料免除・奨学金業務、就職支援等）」、「授業料等収納業務」を行うために利用します。

2. 国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うため、氏名及び大学入試センター試験の受験番号に限って、合否及び入学手続等に関する個人情報が、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達されます。
3. 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、「入試結果の集計・分析」、「入学者選抜方法の調査・研究」及び「学生支援関係（授業料免除・奨学金業務等）」を行うために利用します。
4. 一部の業務を外部の事業者へ委託する場合があります。この場合、外部の事業者と個人情報の取扱いが適切に行われるよう契約を結んだ上で、当該事業者に対して個人情報を提供します。
5. 捜査機関等が捜査上必要とした場合等、行政機関等が法令に定める業務等を行うに必要な限度で利用することについて、相当の理由があるときに、当該行政機関に個人情報を提供します。

入試情報の開示

志願者数・受験者数・合格者数・追加合格者数・入学者数

和歌山大学ホームページ「入試情報」 <http://www.wakayama-u.ac.jp/admission/> でお知らせします。

合格者の最高点・最低点及び合格者平均点

募集単位ごとに、合格者の最高点・最低点、合格者平均点を、大学入試センター試験と個別学力検査等の総合点で平成 30 年 4 月以降準備が整い次第、本学ホームページ上で開示します。ただし、募集人員又は合格者のいずれかが 10 人以下の入試については開示しません。

正解解答例、出題の意図

平成 30 年度入試で出題した教科・科目等の正解・解答例又は出題の意図を、平成 30 年 4 月以降準備が整い次第、開示します。

入試成績等の本人開示

(共通事項)

平成 30 年度一般入試を受験した者（以下「開示申請者」）に限り、開示します。代理人による申請は認めません。

(注意)

次の受験者は、開示請求をしても開示を行いません。（合格者選考の対象とならないため。）

- ・ 各学部・学科等が指定する平成 30 年度大学入試センター試験の教科・科目及び個別学力検査等の教科・科目を 1 つでも受験しなかった者
- ・ 出願時に届け出た個別学力検査等の科目を 1 つでも受験しなかった者
- ・ 国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）の推薦入試合格者で入学手続を行った者又は当該大学の許可を得ずに入学を辞退した者で前期日程・後期日程受験者
- ・ 国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）のAO入試合格者で入学手続を行った者又は当該大学の許可を得ずに入学を辞退した者で前期日程・後期日程受験者
- ・ 国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）の前期日程に合格し、入学手続を行った後期日程受験者

(試験成績)

1. 申請期間・指定曜日、窓口時間及び申請先

平成 30 年 5 月から 6 月の 2 か月間。月曜日から水曜日（祝祭日を除く）の 9 時から 17 時（12 時から 13 時を除く）。

和歌山大学入試課 〒640-8510 和歌山市栄谷 930

2. 申請方法

- ① 平成 30 年 4 月 25 日以降に本学ホームページ(トップ→入試情報→入試関連情報→入試情報開示)に掲載する「試験成績開示申請書」をダウンロードし、A4 サイズに印刷し、必要事項を記入してください。
- ② 「3. 提出書類」を取り揃えてください。
- ③ 申請期間を確認し、申請先に持参又は郵送により申請してください。
- ④ 持参の場合は、所定の申請期間・指定曜日に注意し、申請先に提出してください。
- ⑤ 郵送の場合は、本学への 3. 提出書類①～④を郵送する封筒には「一般入試 前期（又は後期）日程成績開示請求」と朱書きし、平成 30 年 6 月 27 日（水）17 時までに必着となるよう郵送してください。

3. 提出書類

- ① 「試験成績開示申請書」
- ② 「平成 30 年度和歌山大学受験票」原本 前期日程又は後期日程（開示申請する日程）
- ③ 「平成 30 年度大学入試センター試験受験票」原本
- ④ 「返信用封筒（長形 3 号：12cm×23.5cm）に、申請者（受験者）の郵便番号・住所・氏名を記入し、402 円分切手を貼付したもの」

注 1. 上記受験票は、確認後開示内容とともに返却します。

注 2. 返信用封筒の宛名は必ず受験者本人としてください。受験者本人以外には発送できません。

注 3. 提出書類の④は持参申請・郵送申請ともに必ず同封してください。

注 4. 返信用封筒に貼付する切手は、重ねて貼付しないでください。

注 5. 前期日程と後期日程の両方の入試成績を開示申請する場合も、返信用封筒は 1 枚で構いません。

注 6. 返信用封筒「長形 3 号（12cm×23.5cm）」のサイズは厳守してください。指定されたサイズ以外の場合、郵便料金の不足により開示に応じられません。

注 7. 返信用封筒に 402 円分切手を貼付していない場合、切手が不足している場合、提出書類を同封していない場合、書類不備の場合は、「申し込まない」者として処理します。

注 8. 郵便料金が改定された場合は、改定後の定形郵便物簡易書留料金分（50g 以内）の切手を返信用封筒に貼付してください。

4. 開示内容

得点	(a) 大学入試センター試験総合点（本学所定の換算点） (b) 個別学力検査等科目別得点 (c) 個別学力検査等合計点 (d) 総合点：(a)+(c)
順位	当該募集単位における順位 ただし、募集人員又は合格者のいずれかが 10 人以下の入試については開示しません。

5. 開示方法

申請必要書類受理後、申請時に提出された返信用封筒により、およそ 1 か月以内に「簡易書留」郵便にて郵送します。

（調査書）

客観的な数字・記号、客観的事実が記述されている部分のみを閲覧開示します。「特別活動の記録」、「指導上参考となる諸事項」、「総合的な学習の時間の内容・評価」、「備考」を除きます。申請期間・指定曜日、窓口時間、申請先、申請方法、提出書類は試験成績に準じます。ただし、開示は閲覧のみのため、申請方法は「持参による方法」のみとなります。

学部紹介

1. 教育学部

教育学部は、その前身を明治期に発足した師範学校におく、本学でもっとも古い歴史をもった学部です。昭和24年（1949年）新制和歌山大学では学芸学部、その後、教育学部と学部名称は変わりますが、その間一貫して教員養成を通じて地域社会に大きな貢献をしてきました。

平成元年（1989年）に教員養成以外にも視野を広げた、教員免許状取得を目的としない新課程を設置し、組織や名称を変更しながら今日まで継承してきましたが、平成27年（2015年）入学者をもって終了し、学校教育教員養成課程に一本化しました。これは、少子化や学力低下、いじめや不登校など、深刻化し、複雑化していく諸問題に対応するため、教員養成に学部の力を集約させることを狙った改革です。これまで新課程が担った、学校の外への視点や幅広い教養を教員養成課程に取り込みつつ、これらの問題解決にあたることを考えています。

この課程には初等教育コース、中等教育コース、特別支援教育コースの3つのコースをおきます。このようにキャリアパスを明確にすることで、自分のめざすべき進路にまっすぐに向かうことができるようにしました。もっとも、それぞれのコースは相互に関連しているので、それらをつなぐ視点も大切にしています。具体的には小・中連携を中心に特別支援教育や幼児教育とつなぎます。

本学部が力を入れていることの一つに、実践力の向上があります。これは単に「即戦力の養成」というのとは少し違います。実際、多様な学校現場ですぐに役に立つ人材になるのは至難です。大切なことは、困難な教育現場にあって、日々悩みながら同僚たちと協働して子どもの支援に向かう覚悟と姿勢を準備することです。

そのためには、自主的で多様な教育経験が必要になります。教育実習はその最大のものですが、それ以外にへき地・複式教育実習のようなオプションの実習、経験豊かな現場教員の授業、さらには教育ボランティアや教育系のサークルなど課外の活動も多く用意されています。これらを通じて、悩みながら成長し続ける教員になっていけるよう支援しています。

初等教育コース

このコースは児童の発達や教科のつながりなどを総合的に捉え、小中連携の視野を持った小学校教員の養成をめざします。子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、教育に関するさまざまな科学・研究分野を学びます。さらに、学校教育の基本的課題のみならず今日の学校内外で多発する複雑で深刻な教育問題に対応できる、総合的で実践的な教育的力量を身につけます。

このコースでは初等（小学校）の専門性を高めるために「初等教育エキスパート科目」を設定し、教職分野の力や小学校教科の指導法及び教科内容の力をつけます。また小中連携を意識した「小中連携科目」の履修により校種間のつながりを意識した学びができます。このコースでは卒業要件として、[小学校教員免許1種]の取得が課せられます。本人の希望により幼稚園教員免許や中学校教員免許、高等学校教員免許、特別支援学校教員免許の取得が可能です。卒業後の進路としては、小学校を中心として、幼・中・高・特別支援学校の教員のほかに、心理職、児童施設指導員、障害者施設指導員、公務員、大学院進学などがあります。

中等教育コース

教科（分野）の専門性を深めつつ、中学校・高等学校教員の養成をめざします。子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、学校における各教科に関する幅広く深い知識と専門的技量を修得します。さらに、文化の継承・発展という教育の基本的課題に対応できる、総合的で実践的な教育的力量を身につけます。

このコースでは教科の専門性を高めるために「中等教育エキスパート科目」を設定し、教職分野の力や中学校・高等学校教科の指導法及び教科内容の力をつけます。このコースでは卒業要件として、[中学校教員免許1種]の取得が課せられます。本人の希望により小学校教員免許、高等学校教員免許、特別支援学校教員免許の取得が可能です。卒業後の進路としては、中学校・高等学校を中心として、小・特別支援学校の教員のほかに、諸種の教育関係職、公務員、大学院進学などがあります。

特別支援教育コース

このコースでは、特別支援教育に関する専門的な知識と技能を修得します。通常の教師としての資質を高めながら、学習や発達に困難のある児童生徒や、心身に障害を有する児童生徒など、教育上特別なニーズを有する子どもの指導、支援に関する高度な専門性を身につけることが目標です。

授業では、特別支援教育に関する教育学、心理学、指導法、医療、福祉について、系統的な知識や技術を学ぶとともに、教育の時代的な変化の背景にある思潮や、教育の原理、歴史についても学習し、表面的スキルの修得に終わらない深い学びを目指します。さらに子どもと接する機会を多く設け、体験を通して学ぶことができる授業を展開しています。

このコースの卒業要件として、[小学校教員免許1種]又は[中学校教員免許1種]の取得に加えて、[特別支援学校教員免許1種]を取得することになります。

卒業後の進路は、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員のほかに、福祉施設職員、公務員、一般企業、大学院進学などがあります。

2. 経済学部

本学部は、1922年（大正11年）に創立された旧制和歌山高等商業学校以来の伝統を受け継ぎ、100年近くにわたって社会に多くの優れた人材を送り出してきました。この間、時代と社会の要請にこたえながら、経済社会の理解に不可欠な学問分野である経済学、経営学、会計学、情報学、法学の教員を揃え、論理的思考力、専門知識、実務能力、幅広い教養を有する人材の養成に努めてきました。卒業後の進路は、金融・製造・流通・情報・公務など多様な業種にわたり、昨今の厳しい就職状況下でも就職率は高い水準を保っています。また、本学大学院経済学研究科修士課程に進学する学生もいます。優秀な成績を修めた学生は、3年次修了時点で大学院に進学できる制度が設けられています。

近年の多様化・複雑化する社会においては、複数の学問分野にまたがる専門知識を活用し、一人ひとりが他の人と協力しながら問題を発見・解決する能力が求められています。そのような能力・資質を身につけるために、本学部のカリキュラムは、経済学、経営学、会計学、情報学、法学の各学問領域での体系的な学修に加え、これらのうちのいくつかの学問領域の学修を組み合わせています。その上で、卒業後の進路において必要となる専門知識や実務能力などを考慮して横断的な学問領域における授業科目を体系化しています。学生は初年次から将来の自分の姿を思い描きながら主体的・計画的に学修を進めます。このカリキュラムでは、学修目標とそれによって目指せる可能性のある代表的な進路を想定し、次の「プログラム」を設けています。

「グローバル・ビジネス&エコノミー」

グローバルな視点から経済領域・経営領域で種々の課題に対応できる能力を身に付け、グローバル企業、国際機関、NPO・NGO などにおいて中心的な役割を担える人材となることを目指します。

「企業分析・評価」

企業の資金調達・運用から事業譲渡など、銀行の融資審査や証券会社の引受、会計事務所のコンサルティング業務、一般企業のファイナンス関連業務などで企業価値の分析及び評価を行うことができる人材となることを目指します。

「ビジネスデザイン」

新たな視点から事業、企業の再活性化に取り組める能力を身に付け、企業の企画部門などにおいて、高い企画力を持って組織変革や業務改善を担える人材や、起業家などを目指します。

「企業会計・税法」

会計学及び税法の視点からの実務能力を身に付け、企業の経理・財務部門において、会計・法制度の知識をもとに組織活性化の支援に取り組む人材や、税理士、公認会計士、不動産鑑定士、国家・地方公務員などを目指します。

「地域公共政策・公益事業」

地域社会における課題解決能力を身に付け、地域の活性化を支援する国家・地方公務員や、公益性の高い事業主体の職員などを目指します。

「サステイナブル・エコノミー」

経済における持続可能性を実現できる多様性・柔軟性を有する能力を身に付け、企業のCSR 関連部門、社会的企業、環境 NGO・NPO などにおいて、多様な利害関係者と各組織の橋渡しとなれる人材となることを目指します。

3. システム工学部

システム工学部システム工学科の特徴

近年、科学技術の急速な発展に伴い、さまざまな工業技術が高度化・専門化してきました。また、一方で、エネルギー、環境、情報のようにグローバルに変化する課題から地域の産業の再生や振興といった課題にも対処することが要求されるようになってきました。前者は各専門分野の分化、後者は専門分野の統合・総合化を示唆しています。

このような状況の下にある産業界や社会の要請により柔軟に対応できるよう、システム工学部では平成 27 年、これまでの 5 学科（情報通信システム学科、光メカトロニクス学科、精密物質学科、環境システム学科、デザイン情報学科）を 1 学科（システム工学科）へと改組を行いました。システム工学科には、10 教育研究領域（メジャー）を設定し、学生自らが将来を志向し、自らの興味や資質に見合った領域を主体的に選択することができます。具体的には、2 つのメジャーを選択することによってコースを構成し、学科に相当する専門分野を学ぶことができます。これによりこれまでの学科の枠組みに固執することなく、広範かつ柔軟な専門性をもった応用力・適用力が養われることが期待されます。以下に、各メジャーの教育目的とともにいくつかのコースを示します。

- **メジャー：機械電子制御**

機械電子制御メジャーでは、幅広い視点から論理的思考をもって問題の解決にあたることのできる技術者をめざして、機械工学、応用数学などの素養を身につけた後、制御工学、ロボット工学などのシステム論を用いた設計、運用に関する専門技術について学びます。

- **メジャー：電子計測**

電子計測メジャーでは、人々の生活や産業を支える情報のセンシングや処理システムを創造できる技術者の育成をめざして、電気電子工学や光工学の基礎と、計測デバイスや計測情報処理などの要素技術、さらにこれらを統合した計測システムについて学びます。

- **メジャー：応用物理学**

応用物理学メジャーでは、物質におけるナノスケールの世界を探索し、新しい材料やデバイスの開発に対する社会のニーズに柔軟に対応できる能力を身につけられるように、物性物理学、材料科学、電子工学にわたる専門分野を学びます。

- **メジャー：化学**

化学メジャーでは、化学に関わる基本的法則を学んで物質に関する理解の基盤を作った後、ナノレベルの世界における化学現象や法則、原子・電子レベルでの相互作用の発現や、新たな機能性物質の設計・開発などの専門技術について学びます。

- **メジャー：知能情報学**

知能情報学メジャーでは、人間とコンピュータの新たな関係が再構築される時代において、科学者や技術者として活躍できる人材を育成するための専門教育を行い、人工知能やロボット、視覚情報処理、コンピュータグラフィクスなどについて学びます。

- **メジャー：ネットワーク情報学**

ネットワーク情報学メジャーでは、インターネット上に構築される、新たな情報ネットワーク社会において、科学者や技術者として活躍できる人材を育成するための専門教育を行い、モバイル通信やWebシステム、ビッグデータの解析などについて学びます。

- **メジャー：環境科学**

環境科学メジャーでは、環境を守り、育て、次世代に継承する人材の育成をめざして、環境破壊を未然に防ぐ、自然災害から命や暮らしを守る、地球温暖化に対応する、美しい風景を創造するなど、持続可能な社会の実現に貢献するための知識と技能を学びます。

- **メジャー：環境デザイン**

環境デザインメジャーでは、人と自然のよりよい関係を具現化できる人材の育成をめざして、自然から生活空間にいたる環境を一体として捉え、自然再生、防災緑化、自然エネルギーなど自然と調和する技術、景観保全やまちづくり、建築設計などの計画技術について学びます。

- **メジャー：メディアデザイン**

メディアデザインメジャーでは、メディアデザインと情報の双方の知識を持つ人材の育成をめざして、情報技術としてのサウンドやビジュアルのデザイン、人間工学に基づくインタフェースデザイン、さらにその基礎となるデザイン制作や企画方法について学びます。

- **メジャー：社会情報学**

社会情報学メジャーでは、人や社会を豊かにする情報システムを企画・設計する能力を身につけます。情報技術に支えられた社会の仕組みを知り、新しい情報システムの可能性を探索するために、ソフトウェア開発や高度なコミュニケーションについて学びます。

代表的なコースとそれを構成するメジャー、期待される就職先

コース名	メジャー名	期待される就職先
ロボティクス	機械電子制御 電子計測	機械・電機、自動車、精密機械
ナノテクノロジー	応用物理学 化学	半導体・電子部品、精密機器、化学・医薬品・化粧品、素材
コンピュータサイエンス	知能情報学 ネットワーク情報学	情報・通信、IT サービス、電機
デザインシステム	社会情報学 メディアデザイン	情報・通信、IT サービス、出版・印刷
環境システム	環境デザイン 環境科学	公務員（土木、建築、造園）、建築・住宅、環境プラント
環境化学	環境科学 化学	環境職公務員、環境測量士
電気電子工学	応用物理学 電子計測	電気電子メーカー、精密機械
知能機械システム	機械電子制御 知能情報学	自動車、電機、精密機械、生産機械、医療機器、情報通信産業、ゲーム・アミューズメント
ネットワーク社会システム	ネットワーク情報学 社会情報学	情報通信、サービス産業、ゲーム・アミューズメント

○システム工学部では、スーパーサイエンスティーチャープログラムを設けます。これはシステム工学部卒業後、本学教育学研究科に進学し理科の教員免許の取得を目指すコースです。

4. 観光学部

21 世紀は「観光の時代」。世界のあらゆる国や地域で最も有望な成長分野として注目されるのが観光です。日本においても観光は戦略産業と位置づけられ、官民一体での「観光立国」実現に向けた政策や取組が加速するなか、観光産業や行政の現場と密接に連携しながら、新しい観光学の創造及び観光を支えるに相応しい豊かな教養と専門性、さらにはグローバル時代に対応したハイレベルな国際的・学際的視点を有する観光人材の輩出がますます期待されています。和歌山大学観光学部は、観光教育研究における日本の、そしてアジアの拠点として、これらの人材養成に応えるべくさらに進化します。

観光学部の特色

- ① 観光学は人間の生活・文化に関わるあらゆる分野を総合した学問であることから、人文・社会科学から自然科学までの幅広い分野を融合的・横断的に学ぶことのできる充実したカリキュラムを用意しています。
- ② 最先端の観光理論を学ぶことはもちろん、教員と学生が自治体と連携して地域課題の解決に取り組むプログラムや海外の連携大学等と共同で取り組むエリアスタディ等の機会を通じて、社会の各方面から即戦力として期待される実践力が身につきます。
- ③ ハイレベルな観光人材に相応しい教養の醸成を重視し「観光プロデュース論」「日本文化演習」などユニークな実践科目を配置するほか、グローバル・プログラムの導入を通じて国際化時代における言語面でのバリアフリー化を進めます。

(1) 入学料免除の制度

本学では、次の要件のいずれかに該当する場合は、本人の申請に基づき選考の上、入学料の全額又は半額を免除する制度があります。

- ① 入学前一年以内において本人の学資を主として負担する者（学資負担者）が死亡した場合
- ② 入学前一年以内において本人若しくは学資負担者が風水害の災害を受けた場合

(2) 入学料徴収猶予の制度

本学では、次の要件のいずれかに該当する場合は、本人の申請に基づき選考の上、平成 30 年 7 月末日（入学年度の 7 月末日が日曜日にあたる時は前々日まで、土曜日にあたる時は前日まで）を限度として入学料の納入を猶予する制度があります。

- ① 入学前一年以内において本人の学資を主として負担する者（学資負担者）が死亡した場合
- ② 入学前一年以内において本人若しくは学資負担者が風水害の災害を受けた場合
- ③ 経済的理由により入学料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合

(3) 授業料免除の制度

本学では、次の要件のいずれかに該当する場合は、本人の申請に基づき選考の上授業料の全額又は半額を免除する制度があります。

- ① 入学前一年以内において本人の学資を主として負担する者（学資負担者）が死亡した場合
- ② 入学前一年以内において本人若しくは学資負担者が風水害の災害を受けた場合
- ③ 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合

(4) 奨学金

① 日本学生支援機構の奨学金

（申込資格）

学業・人物とも優秀で、経済的理由により修業が困難である者。

（奨学生の決定）

本学が人物・健康・学力・家計の申込基準を満たしている奨学金申込者の中から選考の上、日本学生支援機構に推薦します。その後同機構で審査の上、採用を決定します。基準を満たしていても、予算の関係で採用されない場合があります。

（奨学金の種類）

＜第一種奨学金（無利子）＞・・・貸与月額 自宅通学 30,000 円、45,000 円
から選択

自宅外通学 30,000 円、45,000 円、51,000 円
から選択

＜第二種奨学金（有利子）＞・・・貸与月額 30,000 円、50,000 円、80,000 円
100,000 円、120,000 円から選択

（注）貸与月額については、平成 29 年度実績であり変更されることがあります。

② 地方公共団体等の奨学金

日本学生支援機構の奨学金の他に、地方公共団体や各種団体等が扱っている育英奨学金制度があります。これらの募集は、ほとんどが4～5月に集中しており、学生センターの掲示板に随時掲示しています。この他に、大学に直接募集の無いものもありますので、各団体や出身の都道府県に各自問い合わせてください。

③ 家計急変奨学金

本学では、学資負担者の家計急変（失職、破産、倒産、病気、死亡若しくは地震・風水害の被害等）により修学を継続することが経済的に困難となった学生で、他の経済的支援が受けられない学生に対し、学費・生活費を援助することを目的とした奨学金制度があります。

貸与額：無利子貸与とし、一時金10万円、20万円、30万円より申請者が選択する。

返還期間：貸与された翌月から卒業後3年以内。

（5）学生傷害保険等

① 学生教育研究災害傷害保険（学研災）

学研災は、日本国内外において、学生が正課中、学校行事中、通学中、大学施設内にいる間及び課外活動中等に不慮の事故にあい、傷害を受けたり、あるいはそれらが原因で後遺障害を負ったり、死亡した場合に、当該学生やその家族に保険金が支払われる全国的規模の補償制度です。

（注）本学が学生全員の学研災の保険料を負担し、一括加入していますので、個々に加入する必要はありません。

② 学研災付帯賠償責任保険（学研賠）【任意加入】

学研賠は、学研災に加えて任意に加入できる保険で、日本国内外において、学生が正課中、学校行事中、課外活動中（注1）及びその往復等で、他人にけがを負わせたり、他人の財物を損壊したことにより生ずる法律上の損害賠償を保証する制度です。

（注1）この保険での「課外活動」とは、大学の規則にのっとり所定の手続により、インターンシップ又はボランティア活動の実施を目的とした組織として承認を受けた学内学生団体が行うインターンシップ又はボランティア活動をいいます。これ以外のクラブ活動中の事故は保険金支払いの対象とはなりません。ただし、正課又は学校行事に合わせてその日のクラブ活動（大学が禁じているもの等は除きます。）に参加する場合、その住居と活動場所となる施設の間を合理的な経路及び方法により移動中に行った行為は対象となる活動に含みます。

③ 学研災付帯学生生活総合保険（学総）【任意加入】

学総は、学研災及び学研賠では補償が不足すると思われる場合に、学研災に加えて任意に加入できる保険で、学研災や学研賠では補償されない病気や日常生活でのケガ等についても補償されます。この保険に加入すれば、賠償責任を負った場合の補償を含んでいるため、学研賠に加入する必要はありません。

(6) 学生寮

本学には、次のとおり学生寮が設置されています。

区分	所在地	定員	1 室定員	新入生入寮 可 能 人 員	備考
学生寮(男子)	和歌山市栄谷 930 番地	120 人	1 人	約 30 人	鉄筋コンクリート
学生寮(女子)	(大学構内)	50 人	1 人	約 10 人	5 階建

寄宿料は、月額 4,300 円となっています。なお、寄宿料は、和歌山大学学生寮管理運営規則の改正により変更することがあります。

寄宿料以外に、寮生活に伴う電気代、ガス代、水道料等の負担（10,000円～15,000円程度）があります。

(7) 下宿・アパート

市街地及び大学周辺のアパート・マンション等の斡旋は、和歌山大学消費生活協同組合（073－456－4155）で行っていますので、各自問い合わせてください。なお、平均的な物件の家賃は月額 35,000 円～45,000 円です。

(8) ノートパソコン等の情報端末の活用と準備について

本学では、履修登録やレポート及び卒業論文の作成・提出、授業資料の閲覧などでパソコンを使用する機会が多くあります。平成29年度より更なる学修環境の向上のため、個人所有のノートパソコン等の情報端末を授業でも活用する取組を開始しています。このための準備（購入等）が入学後に必要となります。

詳細につきましては、下記ホームページにて随時公開すると共に入学手続き時に改めて案内します。

http://www.wakayama-u.ac.jp/admission/faculty/essential_pc.html

QR コード



(9) 学生生活に関する問合せ先

「ノートパソコン等の情報端末の活用と準備について」の問合せは、必ず指定の専用窓口電話番号に問い合わせてください。

(1) ～ (7) 窓口

問合せ事項	問合せ先
入学料免除、入学料徴収猶予、授業料免除	学生センター（学生支援課） TEL 073-457-7122
奨学金	学生センター（学生支援課） TEL 073-457-7128
学生傷害保険等	学生センター（学生支援課） TEL 073-457-7123
学生寮	学生センター（学生支援課） TEL 073-457-7132
その他	学生センター（学生支援課） TEL 073-457-7121

(8) 専用窓口

問合せ事項	問合せ先
ノートパソコン等の情報端末の活用と準備	学術情報センター（学術情報課） TEL 073-457-7177

〔確認方法〕

下記の表は、本学が指定する大学入試センター試験の教科・科目を受験したことを確認するための表です。
出願書類として提出する必要はありません。

22～35 ページの志望学部「入学選抜実施教科・科目等」を参照の上、志願者本人が、本人の責任において下表の確認欄に○をして確認をしてください。「入学選抜実施教科・科目等」に記載の、科目数以外の注意事項も必ず確認してください。

各学部・学科等が指定する教科・科目を1つでも受験していない者は、出願することはできません。

教育学部（学校教育教員養成課程文科系）

教科	国語	地理歴史				公民			数学①	数学②			理科①				理科②				外国語							
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理、政治・経済	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1	2									1	1			理科①から2又は理科②から1								1					
確認欄																												

教育学部（学校教育教員養成課程理科系）

教科	国語	地理歴史				公民			数学①	数学②								理科②				外国語						
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理、政治・経済	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎					物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1	1									1	1								2				1				
確認欄																												

教育学部（学校教育教員養成課程実技系「音楽又は美術」、「保健体育」）

教科	国語	地理歴史				公民			数学①	数学②			理科①				理科②				外国語							
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理、政治・経済	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1	2又は1									1	1			理科①から2又は理科②から1 又は 理科②から2				1									
確認欄																												

前期日程

経済学部

教科	国語	地理歴史				公民				数学①	数学②				理科①				理科②				外国語						
科目	国語	世界史B		日本史B		地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理、政治・経済	数学Ⅰ	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1	1又は2					0又は1					1	1					理科①から2又は理科②から1					1						
		2																											
確認欄																													

システム工学部

教科	国語	地理歴史						公民				数学①	数学②								理科②				外国語						
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理、政治・経済	数学Ⅰ	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎						物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1	1										1	1								2				1						
確認欄																															

観光学部

教科	国語	地理歴史				公民				数学①		数学②			理科①				理科②				外国語											
科目	国語		世界史B		日本史B		地理B		現代社会		倫理		政治・経済		倫理、政治・経済	数学Ⅰ	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1	1又は2						0又は1						1	1			理科①から2又は理科②から1							1									
		2																																
確認欄																																		

〔確認方法〕

下記の表は、本学が指定する大学入試センター試験の教科・科目を受験したことを確認するための表です。

出願書類として提出する必要はありません。

22～35 ページの志望学部「入学者選抜実施教科・科目等」を参照の上、志願者本人が、本人の責任において下表の確認欄に○をして確認をしてください。「入学者選抜実施教科・科目等」に記載の、科目数以外の注意事項も必ず確認してください。

各学部・学科等が指定する教科・科目を1つでも受験していない者は、出願することはできません。

教育学部（学校教育教員養成課程文科系）

教科	国語	地理歴史					公民			数学①	数学②				理科①				理科②				外国語					
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理、政治・経済	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1	2										1	1				理科①から2又は理科②から1				1							
確認欄																												

教育学部（学校教育教員養成課程理科系）

教科	国語	地理歴史						公民			数学①	数学②								理科②				外国語				
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理、政治・経済	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎					物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1	1										1	1								2				1			
確認欄																												

経済学部

教科	国語	地理歴史						公民			数学①		数学②				理科①				理科②				外国語					
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理、政治・経済	数学Ⅰ	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1	1又は2						1			1	1				理科①から2又は理科②から1				1										
		2（ただし、理科①で2科目を選択した場合は3）																												
確認欄																														

後期日程

システム工学部

教科	国語	地理歴史				公民				数学①		数学②				理科②				外国語										
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理、政治・経済	数学Ⅰ	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎					物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1	1								1	1								2				1							
確認欄																														

観光学部

教科		国語		地理歴史				公民				数学①		数学②				理科①				理科②				外国語				
科目	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理、政治・経済	数学Ⅰ	数学Ⅰ・数学A	数学Ⅱ	数学Ⅱ・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
指定科目数	1	1又は2										1	1				理科①から2又は理科②から1								1					
		2（ただし、理科①で2科目を選択した場合は3）																												
確認欄																														

入学願書等記入上の注意

必ず、12～18 ページも確認の上、記入及び作成してください。不備がある場合は受理しません。

様式は、前期日程用の所定様式（青色） と 後期日程用の所定様式（黄色）

の二種類があります。

出願する試験日程用の様式を使用してください。大学入試センター試験成績請求票は、出願する試験日程の様式の所定欄に貼付してください。

1. 入学願書等の記入は、この学生募集要項を熟読し、各事項に留意し「(記入例)」を参照の上、白抜きの枠内のみ記入してください。
2. 黒のボールペン（摩擦等の温度変化で筆跡が透明化するペンは使用不可）を用い、文字は楷書で数字は算用数字で丁寧に記入してください。
3. 志望学部・学科等の個別学力検査等科目は、出願後の変更は認めませんので誤りのないように注意してください。
4. 入学願書・電算処理票・受験票・写真票は切り離さないでください。
5. 誤って記入した場合は、誤記部分を二本線で抹消し、その上に訂正印を押印し、余白部分に訂正してください。修正液、修正テープ類の使用や紙面の削り取り等はしないでください。

入学願書

○「氏名、性別、生年月日」欄

本欄は、前期日程・後期日程ともに記入要領は同じですが、様式は、前期日程は青色、後期日程は黄色と所定様式は異なります。

(記入例)

フリガナ	ワダイ タロウ
氏名	和大 太郎 男
生年月日	昭和 平成 11 年 5 月 1 日

氏名・フリガナを記入してください。但し、合格通知書の印字は大学入試センターより提供される漢字・フリガナを使用しますが、常用漢字ではない等を理由に漢字等が提供されない場合は、この限りではありません。

性別は「男」「女」のいずれかを○で囲んでください。

生年月日は、元号を○で囲み、記入してください。

○「出願する学部」欄

本欄は、前期日程・後期日程ともに記入要領は同じですが、様式は、前期日程は青色、後期日程は黄色と所定様式は異なります。

(記入例)

出願する学部
教 育 学部

「教育」「経済」「システム工」「観光」のいずれかを記入してください。

○「出願資格」欄

本欄は、前期日程・後期日程ともに記入要領は同じですが、様式は、前期日程は青色、後期日程は黄色と所定様式は異なります。

(記入例)

出願資格	出願資格「1」 高等学校若しくは中等教育学校卒業者(卒業見込者)	出身学校 所在都道府県	和歌山 都 道 府 県		出身学校名	国立 公立 私立	和 大 中等教育学校		高等学校
		昭和 平成	30 年 3 月		卒業・卒業見込みの別 (白枠のいずれかに○ をしてください。)	卒業	○	卒業見込み	
	上記以外 (見込み含む) 出願資格「2」～「4」		「2」高専3年次		「3-②」在外教育施設		「3-⑤」 高等学校卒業程度認定試験 (大学入学資格検定含む)		
			「2」特別支援学校		「3-③」専修学校高等課程		「4」個別の入学資格審査		
			「3-①」外国における12年の 課程(これに準ずる者を含む)		「3-④」文部科学大臣の指定 したもの				

出願資格「1」:「高等学校若しくは中等教育学校卒業者(卒業見込者)」に該当する者

1. 出身学校所在都道府県名を記入し、都道府県のいずれかを○で囲んでください。
2. 出身学校名欄の国立・公立・私立のいずれかに○をし、出身学校名を記入してください。また、高等学校・中等教育学校のいずれかに○をしてください。
3. 昭和・平成のいずれかに○をし、卒業又は卒業見込年月を記入してください。
4. 卒業・卒業見込みの別を、該当する欄の白枠に○をしてください。

出願資格「2」～「4」:上記以外(見込み含む)に該当する者

該当する出願資格を本要項9ページの「出願資格」で確認し白枠に○をしてください。

○「連絡先」「追加合格連絡先」欄

本欄は、前期日程・後期日程ともに記入要領は同じですが、様式は、前期日程は青色、後期日程は黄色と所定様式は異なります。

(記入例)

連絡先	〒	640-8510	電話番号	073 (457) 7117	携帯電話番号	090 (1111) 1111
	(住所)	和歌山県和歌山市栄谷 930 オレンジコーポ 101 号室				
追加合格 連絡先	〒	—	電話番号	()	携帯電話番号	()
	(住所)	同 上				

1. アパート、マンション等名及び棟・室番等まで記入してください。
2. 出願書類に不備があった場合に、迅速な対応が必要となるため、携帯電話番号も記入してください。
3. 連絡先と追加合格連絡先が同じである場合は、追加合格連絡先住所欄に「同上」と記入してください。
4. 出願後に、住所・電話番号等を変更した場合は、直ちに和歌山大学入試課まで簡易書留速達郵便で届け出てください。

○「入学検定料」欄

入学検定料

金融機関窓口（ゆうちょ銀行を除く）による納入の場合は「C票 振込金受付証明書」を、コンビニエンスストアによる納入の場合は「収納証明書」をこちらに貼付してください。

注 意

必ず、13～14ページを確認してください。

金融機関窓口（ゆうちょ銀行を除く）による納入の場合は、出願する日程の本要項添付様式「平成30年度入学検定料の納入上の注意（前期日程用）」又は「平成30年度入学検定料の納入上の注意（後期日程用）」を確認してください。

入学願書の様式は前期日程と後期日程の二種類あります。必ず、それぞれの日程の入学願書に、それぞれの日程の「C票 振込金受付証明書」又は「収納証明書」を糊で貼付してください。

金融機関窓口（ゆうちょ銀行を除く）による納入の場合

「C票 振込金受付証明書」を貼付してください。C票に金融機関収納印が押印されているかを必ず確認してください。

前期日程の入学願書には青色のC票を、

後期日程の入学願書には黄色のC票を、誤ることなく貼付してください。

コンビニエンスストアによる納入の場合

「収納証明書」を貼付してください。

前期日程の入学願書には前期日程の「収納証明書」、

後期日程の入学願書には後期日程の「収納証明書」を、誤ることなく貼付してください。

電算処理票 前期日程

1
平成30年度和歌山大学電算処理票

前

平成30センター試験
成績請求票
国公立前期日程用
貼付欄

2

志望する学部	コード
教育学部	1
経済学部	2
システム工学部	3
観光学部	4

3

志望する課程・系	コード
学校教育教員養成課程文科系	11
志望する課程・系	コード
学校教育教員養成課程理科系	21
志望する課程・系・専攻	コード
学校教育教員養成課程実技系「音楽又は美術」	31
学校教育教員養成課程実技系「保健体育」	41

4

個別学力検査等科目	コード	個別学力検査等科目	コード
国語	10	日本史	41
英語	30	世界史	42
		地理	43
個別学力検査等科目	コード	個別学力検査等科目	コード
数学	20	生物	53
物理	51	地学	54
化学	52		
個別学力検査等科目	コード	個別学力検査等科目	コード
音楽	61	美術	62
保健体育	63		

※

(※記入しないでください。)

志望する学部	コード	志望する課程・系	コード	学科	コード	個別学力検査等科目	コード	個別学力検査等科目	コード	備考
教育学部	1	学校教育教員養成課程文科系	11			国語	10	日本史	41	
		学校教育教員養成課程理科系	21			英語	30	世界史	42	
		学校教育教員養成課程実技系「音楽又は美術」	31					地理	43	
経済学部	2	経済学科	11			数学	20	生物	53	※経済学部志望者は、英語(必須)の個別学力検査等科目コードに○をする必要はありません。
						物理	51	地学	54	
						化学	52			
システム工学部	3	システム工学科	11			音楽	61	美術	62	※システム工学部志望者は、個別学力検査等科目コードに○をする必要はありません。
						保健体育	63			
観光学部	4	観光学科	11			国語	11	英語(必須)の個別学力検査等科目コードに○をする必要はありません。		※観光学部志望者は、英語(必須)の個別学力検査等科目コードに○をする必要はありません。
						数学	23			
						英語	33			

※教育学部(学校教育教員養成課程)は実技系を除き、入学後にコースを決定します。

(注意)

このページは、電算処理票 前期日程です。

電算処理票 後期日程は、69～70ページを参照してください。

- 67 -

(注意)

必ず、本要項12ページも確認してください。

下記は「電算処理票 前期日程」の記入上の注意です。

電算処理票 後期日程は、69～70ページを参照してください。

1	「平成 30 センター試験成績請求票貼付」枠（大学入試センター試験 受験案内 参照）
	前 平成 30 センター試験 成績請求票 国 公 立 前 期 日 程 用 貼 付 欄 糊で剥がれないように枠内に貼付してください。 「前期日程」に出願する場合は、「前 国公立前期日程用」を使用してください。 - 大学入試センター試験成績請求票の再発行を受けた場合は、再発行後の成績請求票を貼付してください。 <u>注）成績請求票を貼付していない場合及び指定のものと異なる成績請求票を貼付している場合は無効となります。注意してください。</u>
2	「志望する学部」コード欄
	志望する学部のコードを○で囲んでください。
3	「志望する課程・系」コード欄、「志望する課程・系・専攻」コード欄、「学科」コード欄
	「志望する学部」コード欄で教育学部の「1」を選択した者のみ、記入が必要です。 教育学部志望者については、「学校教育教員養成課程文科系」又は「学校教育教員養成課程理科系」、実技系志望者は『学校教育教員養成課程「音楽又は美術」』又は『学校教育教員養成課程「保健体育」』の4種類のいずれかのコードを○で囲んでください。 なお、経済学部、システム工学部、観光学部は、「学科」コード欄に○をする必要はありません。
4	「個別学力検査等科目」コード欄
	22～35ページの志望学部の「入学者選抜実施教科・科目等」を参照し、個別学力検査等で受験する教科・科目のコードを○で囲んでください。但し、システム工学部を除きます。

平成30年度和歌山大学電算処理票

1

後

平成30センター試験
成績請求票
国公立後期日程用

貼 付 欄

※
(※記入しないでください。)

志望する学部	2	チェック欄	志望する課程・系	個別学力検査等科目	コード
教育学部			学校教育教員養成課程 文科系	小論文	1 11 71
			学校教育教員養成課程 理科系	小論文	1 21 72
志望する学部		チェック欄	学科	個別学力検査等科目	コード
経済学部			経済学科	小論文	2 11 98
志望する学部		チェック欄	学科	個別学力検査等科目	コード
システム工学部			システム工学科	総合問題	3 11 81
志望する学部		チェック欄	学科	個別学力検査等科目	コード
観光学部			観光学科	小論文	4 11 99

※教育学部（学校教育教員養成課程）は、入学後にコースを決定します。

（注意）

このページは、電算処理票 後期日程です。

電算処理票 前期日程は、67～68ページを参照してください。

- 69 -

(注意)

必ず、本要項12ページも確認してください。

下記は電算処理票 後期日程の記入上の注意です。

電算処理票 前期日程は、67～68ページを参照してください。

1	「平成 30 センター試験成績請求票貼付」 枠（大学入試センター試験 受験案内 参照）
	後 平成 30 センター試験 成績請求票 国 公 立 後 期 日 程 用 貼 付 欄 糊で剥がれないように枠内に貼付してください。 「後期日程」に出願する場合は、「後 国公立後期日程用」を使用してください。 - 大学入試センター試験成績請求票の再発行を受けた場合は、再発行後の成績請求票を貼付してください。 <u>注）成績請求票を貼付していない場合及び指定のものと異なる成績請求票を貼付している場合は無効となります。注意してください。</u>
2	「志望する課程・系」チェック欄、「学科」チェック欄
	教育学部志望者は、「学校教育教員養成課程 文科系」又は「学校教育教員養成課程 理科系」のいずれかのチェック欄に○をしてください。 経済学部、システム工学部、観光学部志望者は、各学科のチェック欄に○をしてください。

「受験票」、「写真票」前期日程

1. 本要項12ページを確認してください。
2. 氏名を記入し、性別の男・女のいずれかに○をしてください。
3. 志望する学部には「教育」「経済」「システム工」「観光」のいずれかを記入してください。
4. 前期日程教育学部志望者は、「志望する課程・系・専攻」欄に、下記（ア）～（オ）のいずれかを記入してください。（ア）～（オ）の記号は記入不要です。
 - （ア）「学校教育教員養成課程文科系」
 - （イ）「学校教育教員養成課程理科系」
 - （ウ）「学校教育教員養成課程実技系音楽」
 - （エ）「学校教育教員養成課程実技系美術」
 - （オ）「学校教育教員養成課程実技系保健体育」
5. 前期日程「志望する課程・系・専攻」欄は、経済学部・システム工学部・観光学部志望者は記入不要です。

「受験票」、「写真票」後期日程

1. 本要項12ページを確認してください。
2. 氏名を記入し、性別の男・女のいずれかに○をしてください。
3. 志望する学部には「教育」「経済」「システム工」「観光」のいずれかを記入してください。
4. 後期日程教育学部志望者は「志望する課程・系」欄に、下記（ア）・（イ）のいずれかを記入してください。（ア）・（イ）の記号は記入不要です。
 - （ア）「学校教育教員養成課程文科系」
 - （イ）「学校教育教員養成課程理科系」
5. 後期日程「志望する課程・系」欄は、経済学部・システム工学部・観光学部志望者は記入不要です。